授業科目	レクリエーション支援				担当教員 長江 孝						
対象年次・学期	1年・前	期		必何	多・選択区分	必修・1 単位	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的						ためのレクリエ· 基礎を学びます。	- -ション支援	に注目が集めら			
到達目標	係を築く	く方法((ホスピタリティ) や重	が機づけの理論	ーションづくりの に裏付けられた「 スブレーキング) [?]	自主的、主体	本的に楽しむ力			
テキスト・参考図書等		『楽しさをとおした心の元気づくり~レクリエーション支援の理論と方法~』 公益財団法人日 本レクリエーション協会									
	評価方	法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		0								
評価方法・	レポート		0	小テラ	スト・提出物・	演習時の実技・摂	受業への積極!	的な参加姿勢			
評価基準	小テスト	`	30			を総合的に評価し		17.6 2 JH Q 25			
	提出物		30								
履修上の 留意事項	テキスト					動かすレクリエー しく積極的な参加					
		213 C	履修主題	7,1 0 0	1 (700)			, ,			
						復修!	内容				
履修主題・ 履修内容	1	オリエ	ニンテーション		授業の内容と	履修! :評価について	内容				
				ì	授業の内容と	:評価について	<u> </u>				
	1	レクリ	ンテーション		レクリエーシ	:評価について					
	1 2	レクリ レクリ 法 レクリ	ニンテーション リエーション概論	の方	レクリエーシ	:評価について /ョンとは?	ピタリティ				
	1 2 3	レクリ レクリ 法 レクリ 法	ニンテーション リエーション概論 リエーション支援	の方	レクリエーシ 信頼関係づく 信頼関係づく	:評価について /ョンとは? : りの方法・ホスト	ニ タリティ ニ タリティ	グモデル			
	1 2 3 4	レクリレ法レ法レ法レ法	ニンテーション リエーション概論 リエーション支援 リエーション支援	で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	レクリエーシ 信頼関係づく 信頼関係づく 良好な集団つ	:評価について /ョンとは? : りの方法・ホスと : りの方法・ホスと	ピタリティ ピタリティ スプレーキン				
	1 2 3 4 5	レレ法レ法レ法レ法レ法レ法	ニンテーション 概論 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援	である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	レクリエーシ 信頼関係づく 信頼関係づく 良好な集団コ 良好な集団コ	注評価について /ョンとは? (りの方法・ホスト (りの方法・ホスト ()の方法・ホスト	ピタリティ ピタリティ スプレーキン スプレーキン	グモデル			
	1 2 3 4 5 6	レレ法レ法レ法レ法レ法レ法	ニンテーション 概論 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援	(の方 (の方 (の方 (の方	レクリエーシ 信頼関係づく 信頼関係づく 良好な集団コ 良好な集団コ 良好な集団コ	デ評価について /ョンとは? (リの方法・ホスと (リの方法・ホスと がくりの方法アイス がくりの方法アイス	ピタリティ ピタリティ スプレーキン スプレーキン スプレーキン	グモデル			
	1 2 3 4 5 6 7	レレ法レ法レ法レ法レ法レ法レ法レ法	ニンテーション 概論 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援	の方	レクリエーシ 信頼関係づく 信頼関係でする 良好な集団で 良好な集団で 良好な集団で 良子の 展開主所 展開方的、法	だ評価について /ョンとは? じの方法・ホスと じりの方法・ホスと がくりの方法アイス がくりの方法アイス がくりの方法アイス な的に楽しむ力を育	ピタリティ ピタリティ スプレーキン スプレーキン なプレーキン 育むレクリエ	グモデル グモデル ーション活動の ーション活動の			
	1 2 3 4 5 6 7 8	レレ法レ法レ法レ法レ法レ法レ法レ法	ニンテーション 概論 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援	の方	レクリエーシ 信頼関係づく 信頼関係でする 良好な集団で 良好な集団で 良好な集団で 良子の 展開主所 展開方的、法	だ評価について /ョンとは? じりの方法・ホスと じりの方法・ホスと がくりの方法アイス がくりの方法アイス がくりの方法アイス がくりの方法アイス	ピタリティ ピタリティ スプレーキン スプレーキン なプレーキン 育むレクリエ	グモデル グモデル ーション活動の ーション活動の			
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	レレスとはしましましましましました。	ニンテーション 概論 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援	の方	レクリエーシー 信頼関係 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	評価について ションとは? じりの方法・ホスと いりの方法・ホスと がくりの方法アイス がくりの方法アイス がくりの方法アイス がくりの方法アイス がくりの方法アイス がいに楽しむ力を育な的に楽しむ力を育な	ピタリティ ピタリティ スプレーキン スプレーキン なプレーキン 育むレクリエ	グモデル グモデル ーション活動の ーション活動の			
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	レレスト とうしょ しょう しょう ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・	ニンテーション 概論 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援	の方	レクリスーシー に 信頼関係 で 良好 好 好 主開主開主開主開 自展開主開 自展開主開 自展開主開 日展開主開	評価について ションとは? ジリの方法・ホスと ジくりの方法・ホスと ジくりの方法アイン ジくりの方法アイン ジくりの方法アイン がくりの方法アイン	ピタリティ ピタリティ スプレーキン スプレーキン なプレーキン 育むレクリエ	グモデル グモデル ーション活動の ーション活動の			
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	レレスレ法レ法レ法レ法レ法レ法レ法レ レクターク・クーク・クーク・クーク・クーク・クーク・クーク・フェー・フェー・フェー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファ	ニンテーション 概論 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援	の方の方の方の方の方の方の方の方をの方を	レクリエーシー (信頼関係) (は) () () () () () () () () (評価について ションとは? ジリの方法・ホスと ジくりの方法・ホスと ジくりの方法アイン ジくりの方法アイン ジくりの方法アイン がくりの方法アイン	ピタリティ ピタリティ スプレーキン スプレーキン なプレーキン 育むレクリエ	グモデル グモデル ーション活動の ーション活動の			
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	レレン と は し と し と し と し と し と し と し と し と し り り り り	コンテーション 概論 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援 リエーション支援		レクリ 信頼 類 係 に 良 的 方的方的方的方 グ で で は 果 集 、法 、法 、法 、	に評価について ションとは? いの方法・ホスと いの方法・ホスと いの方法・ホスと いの方法アイン いくりの方法アイン いくりの方法アイン いくりの方法アイン いくりの方法アイン いくりの方法アイン いくりの方法アイン いい楽しむ力を育な的に楽しむ力を育な的に楽しむ力を育な	ピタリティ ピタリティ スプレーキン スプレーキン なプレーキン 育むレクリエ	グモデル グモデル ーション活動の ーション活動の			

投業科目 上ウリエーション支援 表江 集子							
実務	授業科目	レクリエーション支援	担当教員	長江	集子		
14	IXXIII	V / / Z / Z / Z / Z / Z / Z / Z / Z / Z	実務 経験	有:	į	₩:	
接続 担当員 実務 提 担当員 実務 提 担当員 実務 提 担 教 教 財 教 接 提 財 教 接 接 接 提 財 教 接 接 上 教 接 上 教 接 上 教 接 上 教 表 接 上 教 表 接 上 表 表 表 表 表 表 表 表 表	対象年次・学期	1年・前期	担当 教員				
教員 実務數 担教 実経 担教 実務 しき	授業形態						
経験			担当 教員				
教員 実経 担教 実経 日教 工具 工具 工具 工具 工具 工具 工具 工具 工具 工具							
経験 担教 実務験 担教 実務験 担教 実務験 担教 実経 当員 実経験 担教 実経 当員 実経験 担教 実経 強 当員 実経験 担教 実務験 担教 実務験							
教員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 程 担当員 実務 程 担当員 を 五 五 日 五 日 五 日 五 日 五 日 五 日 五 日 五 日 五 日							
経験 担当員 実務 担對員 実務			担当教員				
教員 実務 担当教 実務							
経験 担当 実務験 担当 担当 教 実務験 担当員 実務験 担当員 実務験 担当員 実務験 担当員 実務験 担当員 実務験							
教員 実務 担当員 実務 担当員 実務験 担当員 実務験 担当員 実務験							
経験 担当 教 発験 担当 教 実務験 担当 教 実務験 担当 教 実務験 担当 教 実務験							
教員 実務 担当 教員 実務 経験 担当 教員 実務 担当 教員 実務							
経験 担当教員 実務 経験 担当教員 実務 経験 担当教員 実務							
教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験 担当 教員 実務			実務 経験				
経験 担当教員 実務経験 担当教員 実務							
教員 実務 経験 担当 教員 実務			実務 経験				
経験 担当 教員 実務			担当教員				
教員							
実務			担当教員				
			実務 経験				

授業科目	医学概	論			担当教員	柳谷 敦					
対象年次・学期	1年・前	 前期		必何	多・選択区分	必修・2 単位	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的	疾病と 福祉職z	障害お。 が業務を	とびその予防・治 を行うにあたって	療・予必要な	予後・リハビリ は医療知識や健	あり、身体構造を テーション、公衆 康対策・保健医療	衛生につい 対策の知識	てを学びます。 を学びます。			
到達目標	療におり疾病が	ナる健康 どのよう	東と疾病の概念を	述べる 原因と	ることができる と機序を理解し	機能を果たしてい。 。 たうえで予防方法					
テキスト・参考図書等		社会补 央法規と		福祉士	上養成講座1 │	医学概論」日本ソ	ーシャルワ-	- ク教育学校連			
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		70								
評価方法・	レポー	١-	0	宁期主	対験 小二フト	· 、提出物、授業^	の参加能産	た松仝して証価			
評価基準	小テス	٢	15	た 期間		、旋山初、投耒八	(0) 参加忠反	を総合して評価			
	提出物										
	その他	トた中や	15 <u> </u> 毎することがあり	≠ ≠	証価亡法に会	まれているので積	掘的に会加	してください			
履修上の 留意事項		寮に必要	要な基礎的な授業			わる内容であるた					
履修主題・			履修主題		履修内容						
履修内容	1		7ステージにおけ 変化と健康課題	る心	る心 オリエンテーション ライフステージにおける心身の特徴 と健康課題						
	2	健康及	D構造と心身機能 及び疾病の捉え方		身体構造と骨の仕組み 健康と疾病の概念 健康の定義						
	3		D構造と心身機能 ニ障害の成り立ち		心身機能(肺循環と体循環) 疾病の発生原因と成立機序						
	4	防・治 テーシ リハ b	☆ できまるはできる。 ☆ できます できます できます できます できます できます できます できます	· ビリ 概要	ビリ リハビリテーションの定義、目的、対象と方法 骨折 眼 の構造 視覚障害						
	5	防・治 テーシ 呼吸器	ニ障害およびその 台療・予後・リハ ノョン 器疾患 耳鼻咽喉 悪覚障害、平衡機	トビリ 肺の構造 慢性閉塞性肺疾患(COPD) 肺炎 肺結核 肺がん 睡眠時無呼吸症候群 耳の構造 耳鼻咽喉疾患 藤							
	6	防・治 テーシ 感染症	1 口腔疾患	ビリ		、感染 エイズ 5 腸管出血大腸炎					
	7	防・治 テーシ 精神療 疾患・	実患・発達障害 ・婦人科疾患	ビリ 小児		はじめとする主な料 「自由 障害者手向					
	8	防・治 テーシ 神経郷 機能隊	を患の認知症、高 第字の脳血管疾患	ビリ 次脳	パーキンソン	アルツハイマー型記 /病 脳梗塞 脳に	出血 クモ膜	正出血			
	9				症 痛風)	類 慢性合併症 浴 機能亢進症バセ I	-	-			

10	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 腎・泌尿器 生活習慣病	腎臓の構造 腎不全(急性腎不全 慢性腎不全)腎代替療法(血液透析 腹膜透析 腎移植) 泌尿器疾患 尿路感染 前立腺疾患 悪性新生物(がん)
11	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 血液疾患 膠原病 アレルギー疾患	血液疾患(貧血と白血病) 関節リウマチ SLE アナフィラキシーショック
12	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション の疾患	虚血性心疾患(狭心症 心筋梗塞) 心不全 不整脈 大 動脈疾患 高血圧
13	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 消化器疾患	消化器官の構造 肝胆膵疾患(肝炎 肝障害 肝硬変 肝 癌 膵炎 胆石症)消化器疾患・消化器癌(食道癌 胃癌 大腸癌 膵臓癌)
14	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション 高齢者に多い疾患 悪性腫瘍と緩和ケア	廃用症候群 高齢者の特徴 生理変化 老年症候群(嚥下障害 浮腫 褥瘡 脱水)
15	公衆衛生(公衆衛生の概要 健康増進と保健医療対策) まとめ	公衆衛生の定義と予防医学 保健医療対策 母子保健対策 成人保健対策 高齢者保健対策 精神保健対策 健康日本21

授業科目	医学概論	担当 教員	柳谷	敦		看護師として病院に勤務
技兼代日	区子似硼	実務 経験	有:		無:	
対象年次・学期	1年・前期	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

授業科目	介護の	其木			担当教員	木村 聖美					
1X X 17 L1	71日至 07 2	**				八八 主天		I			
対象年次・学期	1年・前	通年		必何	多・選択区分	必修・4 単位	単位数				
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間			
授業目的			なる理念や、地域としての能力。			継続性を支援する	ためのしく	みを理解し、介			
到達目標						となる考え方や姿 割や専門的能力を					
テキスト・ 参考図書等	法規出) 『最新	『最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 第 2 版 』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央 法規出版 『最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本 第 2 版 』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央 法規出版									
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		60								
評価方法・	レポー		0 20	完	ボ騇 小テフト	、提出物、グル-	- プディフカ	ッションの結城			
評価基準	3.7 X 1					、近山物、ブル 手の意見への理角					
	提出物		10								
	その他 テキス	トを中心	10 こに板書・プリン	<u> </u> ソト・ネキ	現聴覚機器など	による学習を行い	1、演習、事(列検討、施設見			
履修上の 留意事項	学等も! ことを ⁵	取り入れ 学ぶ科目	1ます。「介護の	専門職 业に携れ	」として、基本	となる知識、技術 人格形成をなす中	析、姿勢、思	考の基本となる			
 履修主題・	回		履修主題			履修	内容				
履修内容	1	オリコ 村)	ロンテーション	(木	木 授業の概要説明						
	2	教科書	ቔ 第1章介護 とする人の理解	畐祉を (木							
	3	必要 d 村)		(木							
	4	必要 d 村)		(木	介護福祉を必要とする人())暑らしを埋離するということ						
	5	必要 d 村)	書 第1章介護社会 第1章 第1章 1章	(木	介護福祉を必	が要とする障害者の	の暮らし				
	6	必要 d 村)	書 第1章介護社会 第1章 第1章 100 ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま	(木		,や歴史を聴く場合					
	7		書 第1章介護社会 第1章 第1章 1章		さの介護福祉	らとは何か、その。 とにおける活用、st こまでこたえる <i>1</i>	生活ニーズの				
	8		書 第1章介護社会 第1章 第1章 1章		生活のしづら 活のしづらさ	っさについて考える :	5、日常生活	から考える「生			
	9	必要 d 村)	書 第1章介護社 とする人の理解		「生活のしつ	うらさ」に対する。	支援、家族介	護者への支援			
	10	介護福 生活を 村)	書 第2章 冨祉を必要とする を支えるしくみ		施設見学						
	11	介護福	書 第2章 冨祉を必要とする を支えるしくみ		施設見学						

_			
	12	教科書 第2章 介護福祉を必要とする人の 生活を支えるしくみ (木村)	高齢者のためのフォーマルサービスの概要
_	13	教科書 第2章 介護福祉を必要とする人の 生活を支えるしくみ (木村)	障害者のためのフォーマルサービスの概要
	14	教科書 第2章 介護福祉を必要とする人の 生活を支えるしくみ (木村)	費用負担の区分、フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係、インフォーマルサービスの種類・提供者介護福祉士に求められる支援の視点
	15	教科書 第2章 介護福祉を必要とする人の 生活を支えるしくみ (木村)	地域連携の意義と目的
	16	教科書 第2章 介護福祉を必要とする人の 生活を支えるしくみ (木 村)	地域連携に関わる機関の理解
	17	教科書 第2章 介護福祉を必要とする人の 生活を支えるしくみ (木村)	利用者を取り巻く地域連携の実際
	18	教科書 第4章自立に向けた介護福祉のあり方 (木村)	自立支援とは
	19	教科書 第4章自立に向け た介護福祉のあり方 (木 村)	自立支援とエンパワメントの考え方
	20	教科書 第4章自立に向けた介護福祉のあり方 (木村)	自立支援と ICF(国際生活機能分類)の考え方
	21	教科書 第4章自立に向け た介護福祉のあり方 (木 村)	介護における ICF のとらえ方
_	22	教科書 第4章自立に向けた介護福祉のあり方 (木村)	介護予防の概要
	23	教科書 第4章自立に向け た介護福祉のあり方 (木 村)	介護予防の種類と特徴
	24	教科書 第4章自立に向け た介護福祉のあり方 (木 村)	高齢者の身体特性と介護予防
	25	教科書 第4章自立に向け た介護福祉のあり方 (木 村)	介護予防の実際
	26	教科書 第4章自立に向け た介護福祉のあり方 (木村)	自立支援と介護予防
	27	教科書 第4章自立に向け た介護福祉のあり方 (木 村)	介護予防における介護福祉士の役割
	28	高齢者と薬 (後藤)	薬の知識
	29	高齢者と薬 (後藤)	薬の使用方法と留意点
	30	まとめ(木村)	今までの振り返り

授業科目	介護の基本	担当 教員	後藤	こずえ	看護師として介護事業所に勤務
1文未代日	月歳の基本	実務 経験	有:	無:	省時前として月時争未がに到 物
対象年次・学期	1年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	介護の基本				担当教員	立成 みゆき					
対象年次・学期	1年・通	年			必何	き・選択区分	必修・4 単位	単位数			
授業形態						授業回数	30 回	時間数	60 時間		
授業目的			る理念や、 としてのf				継続性を支援する	。 るためのしく。	みを理解し、介		
到達目標							となる考え方や姿 割や専門的能力を				
テキスト・ 参考図書等	法規出版	介護福	祉士養成詞 祉士養成詞					上養成講座編 上養成講座編			
	評価方	法	評価割合	(%)			評価基準	Ē			
	試験 60										
評価方法・ 評価基準	レポート 小テスト			20			· 、提出物、グル ·				
HUMET	提出物			10	極的な	(発言や相手の	意見を聞く姿勢な	などを総合的	に評価します。		
	その他			10							
履修上の 留意事項	学等も取 ことを学	り入れ ぶ科目	ます。「介	護の 養福祉	専門職 :に携れ	」として、基本	による学習を行い ととなる知識、技 人格形成をなす中	術、姿勢、思	!考の基本となる		
履修主題・		, , , ,	履修主題		<u> </u>	履修内容					
履修工超	1 1 1	教科書 とは	第1章	介護	福祉	身近になった	介護サービス				
		教科書 とは	第1章	介護	福祉	介護の意味、見方、考え方の変化					
	1 7 1	教科書 とは	第1章	介護	福祉	ト 介護問題への対応、歴史的変遷					
	1 /1 1	教科書 とは	第1章	介護	福祉	・ 介護問題への対応、歴史的変遷					
	5	とは	第1章			上 介護サービスの歴史的変遷、時代背景					
	6	とは	第1章			介護サービスの歴史的変遷、時代背景					
		教科書 とは	第1章	介護	福祉	介護サービス	くの歴史的変遷、「	時代背景			
	8	とは	第1章		福祉	介護と医行為	る、医療的ケアに [・]	ついて			
	9	とは	第1章		福祉	介護理念につ	いて				
	10	とは	第1章			基本的人権の)主体				
		教科書 とは	第1章	介護	福祉	利用者主体の)生活支援				
	1 12 1	教科書 とは	第1章	介護	福祉	利用者の権利	に基づくサービ	ス指針			
	13	の基礎				感染対策、手	=洗い演習、前期:	まとめ			
	1 1/1 1		第2章 能と役割	介護	福祉	地域包括ケア	クシステムの背景				
	15	教科書	<u>ポンス</u> 第2章 能と役割	介護	福祉	介護問題の背					
	16	教科書	第2章 能と役割	介護	福祉	介護予防の視	点				
	17	教科書	第2章 能と役割	介護	福祉	災害時支援と	:災害派遣福祉チ	- Δ			

18	教科書 第2章 介護福祉 士の機能と役割	社会福祉士及び介護福祉士法
19	教科書 第2章 介護福祉 士の機能と役割	求められる介護福祉士像
20	教科書 第2章 介護福祉 士の機能と役割	介護福祉士を支える団体
21	教科書 第3章 介護福祉 士の倫理	介護実践における倫理
22	教科書 第3章 介護福祉 士の倫理	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」
23	教科書 第3章 介護福祉 士の倫理	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」
24	教科書 第3章 介護福祉 士の倫理	日本介護福祉士会倫理綱領
25	教科書 第3章 介護福祉 士の倫理	日本介護福祉士会倫理綱領
26	教科書1第3章 介護福祉 士の倫理	倫理について考える演習
27	まとめ	国家試験に挑戦、授業のまとめ
28	教科書 第4章第3節介護 とリハビリテーション	リハビリテーションの考え方
29	教科書 第4章第3節介護 とリハビリテーション	理学療法の理解
30	教科書 第 4 章第 3 節介護 とリハビリテーション	作業療法の理解

授業科目	介護の基本	担当教員	立成	みゆき	介護福祉士としてデイサービス
1又来11口	川岐の本本	実務 経験	有:	無:	に勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	介護過程	程の基礎	楚		担当教員	柳谷 敦					
対象年次・学期	1年・前	前期		必何	多・選択区分	必修・2 単位	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的						るように、対象と 展開できる能力を		力を引き出し、			
到達目標			閉を理解し、介護 閉できるようにな		ことして専門的	な見地から利用者	を適切に捉え	え、本人主体の			
テキスト・ 参考図書等	『最新 規出版										
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		60								
評価方法・	レポー	7	0	ス の4	hl+	取り組み姿勢やク	ĭ II. — プロー .	クへの結场的次			
評価基準	小テス	-	0		総合的に評価			ノ・ハックイ質イ型ロッタ			
提出物 20											
	その他	ф 99 - ∞ I.	20 + 25 4- 5 to m to 28	<u> </u>	-+>1) + + T	タフェナン 川田 人口	· 55 日日 - ナ フ ナ ン	ド 1まれかれた			
履修上の 留意事項	加を求め	めます。	介護サービス提	供に向	けて大切な授	解できない場合は 業です。授業中に は必ず守ってくだ	課した課題を				
履修主題・	回		履修主題		履修内容						
履修内容	1	介護過	過程とは(柳谷)		介護過程の意義・目的・構成要素						
	2	介護過	過程の理解(柳谷	;)	介護過程の展開						
	3	介護過		公)	ICF の視点と介護過程の関係						
	_		過程とICF (柳	口)	ICF の視点と	介護過程の関係					
	4	介護過	過程とICF (柳 過程とICF (柳			介護過程の関係 た情報収集(個 <i>人</i>	(ワーク)				
		7	-	谷)	ICF を活用し	77.12.2.12.12.12.13.13.1	-)			
	4	介護過	B程とICF (柳	谷)	ICF を活用し ICF を活用し	た情報収集(個人	ノープワーク	-			
	4 5	介護過	過程とICF (柳 過程とICF (柳	谷) 谷) 谷)	ICF を活用し ICF を活用し ICF を活用し	た情報収集(個人	ノープワーク ノープワーク	-			
	4 5 6	介護過介護過かせる	過程とICF (柳 過程とICF (柳 過程とICF (柳 過程とICF (柳	谷) 谷) 谷)	ICF を活用し ICF を活用し ICF を活用し	た情報収集(個人た情報収集(グリカトに情報収集(グリカトで情報収集(グリカトでは、	ノープワーク ノープワーク	-			
	4 5 6 7	介護が介護が介護がアセク	過程とICF (柳 過程とICF (柳 過程とICF (柳	谷) 谷) 谷) 谷) (集)	ICF を活用し ICF を活用し ICF を活用し ICF を活用し 情報収集の意	た情報収集(個人た情報収集(グリカトに情報収集(グリカトで情報収集(グリカトでは、	・一プワーク ・一プワーク ・)			
	4 5 6 7 8	介護 が 譲 が で で で で で で で で で で で で で	過程と ICF (柳 過程と ICF (柳 過程と ICF (柳 以メント(情報収 以メント(情報収 以メント(情報収 以メント(情報収 気橋) 以メント(情報収 気橋)	谷) 谷) 谷) 谷) (集)	ICF を活用し ICF を活用し ICF を活用し ICF を活用し 情報収集の意	た情報収集(個人た情報収集(グリウト た情報収集(グリウト た情報収集(発表を表表を表表	ノープワーク ノープワーク (v) マディの記入	方法)			
	4 5 6 7 8 9	介護護がは、これでは、一角では、一角では、一方のでは、一方のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	過程と ICF (柳 過程と ICF (柳 過程と ICF (柳 以来ント(情報収 以来ント(情報収 以来ント(情報収 以来ント(情報収 以来ント(情報収 以来) 以来ント(情報収 以来)	谷) 谷) 谷) 谷) 集) 集)	ICF を活用し ICF を活用し ICF を活用し ICF を活用し 情報収集の意 情報収集と記	た情報収集(個人た情報収集(グルた情報収集(グルた情報収集(発表 を情報収集(発表 で表表を表表	ァープワーク ァープワーク え) タディの記入 タディの記入	方法)			
	4 5 6 7 8 9	介介 介ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア	過程と ICF (柳 過程と ICF (柳 過程と ICF (柳 過程と ICF (柳 以外)ト(情報収 以外)ト(情報収 以外)ト(情報収 以外)ト(情報収 以外)ト(情報収 以外)ト(情報収 以外)ト(情報収 以外)ト(情報収 以外))	谷) 谷) 谷) 集) 集) 集)	ICFを活用し ICFを活用し ICFを活用し ICFを活用し 情報収集の意 情報収集と記 情報収集と記	た情報収集(個人の た情報収集(グルッ た情報収集(グルッ た情報収集(発表 ・	ァープワーク ァープワーク 表) タディの記入 タディの記入	方法)			
	4 5 6 7 8 9 10	介介 アアアアアアアア アアアアア アアアア アアアア アアアア アアアア	過程と ICF (柳 過程と ICF (柳 過程と ICF (柳 過程と ICF (柳 以来と ICF (明 以来と ICF (柳 以来と ICF (明 以来と ICF (谷) 谷) 谷) 集) 集) 集) 集)	ICFを活用し ICFを活用し ICFを活用し ICFを活用し 情報収集の意 情報収集と記 情報収集と記 事例検討 (た情報収集(個人の作品を開発していた情報収集(グルットに情報収集(グルットに情報収集(発表を表している。 おいま はいま はいま はいま はいま かいま はいま かいま はいま かいま はいま かいま はいま かいま はいま の個人の はいま かいま はいま の はいま かいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま は	アディの記入 アディの記入 フーク)	方法)			
	4 5 6 7 8 9 10 11	介介アアアアアア付護 護 せいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせいせい	過程と ICF (柳 過程と ICF (柳 過程と ICF (柳 過程と ICF (柳 以外) (情報収 以外) (情報収 以外) (情報収 以外) (情報収 以外) (情報収 以外) (情報収 以外) (情報収 以外) (情報収 以外) (情報収	谷 谷 谷 谷 〇 〇 (集) (集) (特) (特) (特) (特) <td>ICFを活用し ICFを活用し ICFを活用し ICFを活用し 情報収集の意 情報収集と記 情報収集と記 事例検討 (</td> <td>た情報収集(個人の た情報収集(グリッた情報収集(グリッた情報収集(発表 を表・方法 は、カース・スタ は、カース・スタ は、サース・スタ は、サース・スタ は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、</td> <td>アディの記入 アディの記入 フーク)</td> <td>方法)</td>	ICFを活用し ICFを活用し ICFを活用し ICFを活用し 情報収集の意 情報収集と記 情報収集と記 事例検討 (た情報収集(個人の た情報収集(グリッた情報収集(グリッた情報収集(発表 を表・方法 は、カース・スタ は、カース・スタ は、サース・スタ は、サース・スタ は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	アディの記入 アディの記入 フーク)	方法)			

授業科目	介護過程の基礎	担当 教員	髙橋	綾		 介護福祉士としてケアハウスに
1文朱代口	川岐地性の全城	実務 経験	有:		無:	勤務
対象年次・学期	1 年・前期	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

FE SH LV E	A +#\E1		D.			호도 /+				
授業科目	介護過和	怪の実践	支		担当教員	髙橋を綾	1			
対象年次・学期	1年・i	通年		必何	多・選択区分	必修・3 単位	単位数			
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間		
授業目的						ように、対象とな 開をできる能力を		を引き出し、本		
到達目標			舌の実現にむけて チームとしての介			行い、根拠に基つ 得する。	びく介護実践?	を伴う課題解決		
テキスト・ 参考図書等	『最新 規出版	介護福	国祉士養成講座 9	介護	過程 第2版	』 介護福祉士養	成講座編集	委員会 中央法		
	評価方	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		60							
評価方法・ 評価基準	レポー		0	その作	也は、提出課題	の内容や提出期間	見、授業への	取り組み姿勢、		
可 测	小テス		10			表への積極的姿勢				
	提面物 その他		30							
履修上の 留意事項	講義や流加を求め	めます。	は学生参加型授業 介護サービス携	供に向	可けて大切な授	解できない場合は 業です。授業中に は必ず守ってくた	課した課題を			
履修主題・	回		履修主題			履修	内容			
履修内容	1	介護過	過程の基礎の振り	返り	介護過程の基礎の振り返り					
	2		スメント (解釈・ ・統合化)	関連	アセスメント (解釈・関連付け・統合化)について					
	3		スメント (解釈・ ・統合化)	関連	事例検討 (アセスメント・個人演習)					
	4		スメント (解釈・ ・統合化)	関連	事例検討 (アセスメント・グループワーク)					
	5	介護計	画立案		介護計画立案について					
	6	介護計	画立案		事例検討 (介護計画立案・個人演習)					
	7	介護計	画立案		事例検討 (介護計画立案・グループワーク)					
	8	介護計	画立案		事例検討 (介護計画立案・グループワーク)					
	9	事例核	美討		事例検討 ((アセスメント)				
	10	事例核	美討		事例検討 ((アセスメント)				
	11	事例核	美討		事例検討 ((介護計画立案)				
	12	事例核	美討		事例検討 ((介護計画立案)				
	13	事例核	美討 		ひもときシ-	- トの活用				
	14	事例核	負討		事例検討 (自身の実習事例が	から~個人ワ	ーク)		
	15	事例核	美討		事例検討 (自身の実習事例が	から~個人ワ	- ク)		
	16	事例核	美討		事例検討 (自身の実習事例が	から~個人ワ	- ク)		
	17	事例核	<u>————————————————————————————————————</u>		事例検討 (自身の実習事例が	から~個人ワ	-ク)		
	18	۲	過程とケアマネジ		介護過程とな	「アマネジメントの	の関係性			
	19	۲	過程とケアマネジ		チームアプロ	1-チにおける介詞	 蒦福祉士の役	 割 		
	20	介護過ト	過程とケアマネジ	・メン	チームアプロ	1-チにおける介記	養福祉士の役	 割		
	21	国家訪	试験対策模擬問題		国家試験対策	 E模擬問題				

22	国家試験対策模擬問題	国家試験対策模擬問題
23	まとめ	介護過程の実践 まとめ

授業科目	介護過程の実践	担当 教員	髙橋	綾		介護福祉士としてケアハウスに
1文未行口	川・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	実務 経験	有:		無:	勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

授業科目	介護総領	合演習			担当教員	阿部 幸恵			
対象年次・学期	1年・道	通年		必何	冬・選択区分	必修・2 単位	単位数		
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間	
授業目的						・事後学習として 専門職としての態		実習に必要な知	
到達目標		こ必要な	は能力を身につけ			録方法、行事プロ 返り、介護の知識			
テキスト・参考図書等	委員会	中央流	祉士養成講座 10 去規出版 介護福祉実習要:			護実習 第2版』 学園 専門学校北海		士養成講座編集 育大学校	
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		0			内での取り組みに			
評価方法・ 評価基準	レポー 小テス		0	とやり	內容、期限厳守	¦する記録物が含ま ' での提出を求めま	₹す。		
HI IM I	提出物	1-	40]ベ学習や企画、摂)参加姿勢が含ま∤		り組み姿勢、行	
	その他		60		と総合的に勘案		,		
履修上の 留意事項	介護実施 題を明確	習での言	て専門職としての	の準備	まと実習後の振 そう科目です	り返りにより知識 。自らが当事者と う。また、実習後	:して積極的	こ取り組んでく	
5745 X 57			履修主題			履修[为容		
履修主題・ 履修内容	1		晶祉実習の意義と 部・髙橋・橋本)		オリエンテーション 介護総合演習の位置づけ、介護福祉実習の意義と目的、到 達目標				
	2		晶祉実習の種類と 学び(阿部・髙橋		介護福祉士養成カリキュラムと介護実習、実習前の学びと その活かしかた				
	3		こついて (阿部・ 5本)	髙	介護福祉実習 方・ポイント	間における記録物、 - 課題	記録の意味	、記録の書き	
	4	備(『	可部・髙橋・橋本		目標設定・入		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		
	5		冨祉基礎実習 可部・髙橋・橋本	前準 :)	基礎実習 事 習目標検討・	事業所理解(調べき 入力	学習)実習	前確認用紙、実	
	6	介護福	畐祉基礎実習 可部・髙橋・橋本	前準	基礎実習 物の確認	事業所報告、実習	肾前記録物準	備、実習後提出	
	7	部・语	晶祉実習前準備(島橋・橋本)		実習の心得、	接遇マナー、電話	舌対応、訪問		
	8	行事選 橋・株	運営企画 (阿部 喬本)	・髙		i、立案、計画書作			
	9	橋・棉	•		外出レクリュ こと	ニーション実施、抗	辰り返り、行	事運営に必要な	
	10		冨祉施設の理解(S橋・橋本)	阿	介護福祉事業	美所の実際 (講話))		
	11	介護福	国祉基礎実習 後 (阿部・髙橋・橋		介護福祉基礎 GW	楚実習 振り返り、	自己評価、	提出物確認、	
	12	介護報 返り(晶祉基礎実習 後 (阿部・髙橋・橋	振り 本)	GW	楚実習 振り返り、			
	13	(阿音	晶祉基礎実習 前 郡・髙橋・橋本)		基礎実習 事習目標検討	事業所理解 (調べき	学習) 実習	前確認用紙、実	
	14	(阿普	晶祉基礎実習 前 昭・髙橋・橋本)			『業所報告、実習 目			
	15		冨祉基礎実習 後 (阿部・髙橋・橋		介護福祉基礎 GW	楚実習 振り返り、	自己評価、	提出物確認、	
	16	介護福	晶祉実習 に向け 部・髙橋・橋本)	7	介護福祉実習 できる	の目的・意義	ながれ、実	習のイメージが	

17	介護福祉実習 に向けて (阿部・髙橋・橋本)	個人票、実習週別目標作成 質疑・応答について
18	介護実習報告会 (阿部・髙 橋・橋本)	2 年生の介護実習報告会に参加 施設実習での取り組みイ メージができる
19	介護福祉実習 に向けて (阿部・髙橋・橋本)	実習施設の理解(調べ学習)カンファレンスの意義・目的
20	介護福祉実習 に向けて 《実技》(髙橋・橋本)	実習に向けての実技確認と必要な準備について2年生から 学ぶ
21	介護福祉実習 に向けて 《実技》(髙橋・橋本)	実習に向けての実技確認と必要な準備について2年生から 学ぶ
22	介護福祉実習 に向けて (阿部・髙橋・橋本)	介護福祉実習 施設報告 リスクマネジメントについて
23	介護福祉実習 に向けて (阿部・髙橋・橋本)	記録物の最終確認 感染対策について
24	介護福祉実習 オリエンテーション(阿部・髙橋・橋本)	実習に向けての最終確認 実習後の提出物・スケジュール の確認
25	介護福祉実習 まとめ (阿部・髙橋・橋本)	介護福祉実習 振り返り
26	介護福祉実習 まとめ (阿部・髙橋・橋本)	介護福祉実習 振り返り
27	介護福祉実習 まとめ (阿部・髙橋・橋本)	介護福祉実習 報告会
28	介護福祉実習 後学習と今 後(阿部・髙橋・橋本)	自己評価、自己覚知、今後の課題と介護福祉実習の検討
29	介護福祉実習 後学習と今 後(阿部・髙橋・橋本)	今後に向けて理想とする介護福祉士像をイメージする
30	介護福祉実習 後学習と今 後(阿部・髙橋・橋本)	今後に向けて理想とする介護福祉士像報告・決意

授業科目	介護総合演習	担当 教員	橋本	亮太	介護福祉士として特別養護老人
1又来作口	刀	実務 経験	有:	無:	ホームに勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

投業科目 介護福祉基礎実習 担当教員 阿部 幸恵 対象年次・学期 1年・通年 必修・選択区分 必修・2単位 単位数 投業形態 投業回数 48 回 時間数 96 時間 日間数 96 時間 96 時間 日間数 96 時間 日間数 96 時間 日間数 96 時間 日間数 96 時間 96 時間 日間数 96 時間 97 年度介護福祉実習要項参照 年本人・参考図書等 年本人・参考図書等 中央決出版 中央決出版 中央大規出版 中央大規工版 中央大規工版 中央大規工版 中央大規工版 中央大規工版 中央大規工版 中央大規工版 中央大学校評価を総合的に判断する。 日程以外での実習日課は難しくなります。予定通りに実習に取り組み終えるよう日目からの健康・体制管理に超色しましょう。実習に向けての準備と振り返りをしっかりと行い次の実習に活かしましょう。 中央大規工版 中央大規工 中央大規工版 中央大規工版 中央大規工 中央大 中央大規工 中央大 中央												
授業日的	授業科目	介護福祉	祉基礎3	笔 習		担当教員	阿部 幸惠					
授業目的 令和7年度介護福祉実習要項参照	対象年次・学期	1年・道	通年		必任	修・選択区分	必修・2 単位	単位数				
マース・ マース・	授業形態					授業回数	48 回	時間数	96 時間			
テキスト・参考図書等	授業目的	令和 7 1	年度介記	舊福祉実習要項 参	於照							
# 集委員会 中央法規出版 *** *** *** *** *** *** *** *** *** *	到達目標											
試験		集委員会 中央法規出版										
評価方法・ 10		評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準					
評価基準		試験		0								
評価基準	評価方法・	レポー	۲	0								
その他 100		小テス	۲	0	実習统	た評価及び学校	評価を総合的に判	亅断する 。				
 履修上の 留意事項 おからないことは多々あるかと思いますが、その都度確認しながら積極的に取り組みましょう。 日程以外での実習日調整は難しくなります。予定通りに実習に取り組み終えるよう日頃からの健康・体調管理に留意しましょう。実習に向けての準備と振り返りをしっかりと行い次の実習に活かしましょう。 履修主題・ 履修内容		提出物		0								
程限		その他		100								
保修土題・ 介護福祉の役割と機能(阿部・髙橋・橋本) 2 介護福祉の役割と機能(阿部・髙橋・橋本) 2 介護福祉の役割と機能(阿部・髙橋・橋本) 3 介護福祉の役割と機能(阿部・髙橋・橋本) 3 付護福祉の役割と機能(阿部・髙橋・橋本) 3 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) 3 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) 3 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) 5 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) 5 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) 5 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) 5 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) 5 東門職としての役割及び介 7 護実践(阿部・髙橋・橋本) 9 専門職としての役割及び介 7 護実践(阿部・髙橋・橋本) 9 東門職としての役割及び介 7 接実践(阿部・髙橋・橋本) 9 東門職としての役割及び介 7 接実践(阿部・髙橋・橋本) 7 接実践(阿部・髙橋・橋本) 7 第一時職としての役割及び介 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7		日程以 康・体語	外での写 調管理は	実習日調整は難し こ留意しましょう	くなり)ます。予定通	りに実習に取り組	み終えるよう	う日頃からの健			
履修内容 1 介護福祉の役割と機能(阿部・髙橋・橋本) 職員の援助を通して利用者とのかかわり方を学び、実践する 2 介護福祉の役割と機能(阿部・髙橋・橋本) さまざまな生活の場における介護福祉士の役割を理解する 3 介護福祉の役割と機能(阿部・髙橋・橋本) 職員の援助方法、多職種協働の実際を学ぶ 4 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) コミュニケーションを通して、多様な価値観を理解する 5 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) コミュニケーションを通して、その人らしさを理解する 6 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) 日課や生活援助を通してその人の生活を理解する 7 博門職としての役割及び介護実践(阿部・髙橋・橋本) 安全に配慮した基礎的な介護技術・知識を学ぶ本カー 8 専門職としての役割及び介護実践(阿部・髙橋・橋本) 地域における施設・事業所の役割を理解する 9 その他詳細は介護福祉実習要項を参照とする 地域における施設・事業所の役割を理解する	履修主題・	回		履修主題		履修内容						
2 部・髙橋・橋本 公まさまな生活の場におりるが護福祉工の役割を理解する 介護福祉の役割と機能(阿部・髙橋・橋本) 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) コミュニケーションを通して、多様な価値観を理解する 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) 日課や生活援助を通してその人の生活を理解する 日課や生活援助を通してその人の生活を理解する 専門職としての役割及び介護実践(阿部・髙橋・橋本) 専門職としての役割及び介護実践(阿部・髙橋・橋本) 安全に配慮した基礎的な介護技術・知識を学ぶ 本		1	部・唐	高橋・橋本)			通して利用者との	かかわり方	を学び、実践す			
3 部・髙橋・橋本) ・福貝の援助方法、多職権協働の美際を予が 4 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) コミュニケーションを通して、多様な価値観を理解する 5 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) コミュニケーションを通して、その人らしさを理解する 6 利用者の理解(阿部・髙橋・橋本) 日課や生活援助を通してその人の生活を理解する 7 専門職としての役割及び介護実践(阿部・髙橋・橋本) 安全に配慮した基礎的な介護技術・知識を学ぶ 8 護実践(阿部・髙橋・橋本) 地域における施設・事業所の役割を理解する 9 その他詳細は介護福祉実習要項を参照とする		2			(阿	さまざまな生活の場における介護福祉士の役割を理解する						
1		3	部・ほ	5橋・橋本)		職員の援助方	ī法、多職種協働 <i>0</i>)実際を学ぶ				
1		4	橋・棉	喬本)		コミュニケー	-ションを通して、	多様な価値	観を理解する			
情・橋本		5			髙	コミュニケー	-ションを通して、	その人らし	さを理解する			
7 護実践(阿部・髙橋・橋 安全に配慮した基礎的な介護技術・知識を学ぶ 本) 専門職としての役割及び介 護実践(阿部・髙橋・橋 本) ・		6	橋・棉	喬本)		日課や生活接	してその人 してその人	の生活を理	解する			
8 護実践(阿部・髙橋・橋 地域における施設・事業所の役割を理解する 本) その他詳細は介護福祉実習 要項を参照とする		7	護実践			安全に配慮し	,た基礎的な介護 技	技術・知識を	学ぶ			
		8	護実践			地域における	施設・事業所の役	 と割を理解す	వ <u></u>			
10		9			実習							
		10										

恒米拉口	介護福祉基礎実習	担当教員	阿部	幸恵	看護師として病院に勤務
授業科目	月	実務 経験	有:	無:	自設即として内状に割分
対象年次・学期	1年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	介護福祉	业実習			担当教員	阿部 幸恵				
対象年次・学期	1年・後	 後期		必何	き・選択区分	必修・3 単位	単位数			
授業形態					授業回数	80 回	時間数	160 時間		
授業目的	令和 7 4	年度介記	擭福祉実習要項 参	照						
到達目標	令和 7 4	年度介記	蒦福祉実習要項参	照						
テキスト・ 参考図書等	委員会	中央流	晶祉士養成講座 1 法規出版 个護福祉実習要項			ト護実習 第2版』 園専門学校北海道		士養成講座編集 大学校		
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポー		0							
評価基準	小テス	<u> </u>	0	実習先	上評価及び学校	評価を総合的に判	断する。			
	提出物		0							
	その他	hL ct= 33 i•	100		マ毛 ねんし 二年	虚に学ぶ姿勢が求	# c + + +	かからかい		
履修上の						虚に子い安勢かぶ 。声にすることが				
留意事項	とって	生活の均	易となっているこ	とを忘	れず、実習に	ご協力いただいて	いる感謝の象	気持ちを忘れず		
		組みまし 		く元気	気に明るく節度をわきまえ取り組んでください。					
履修主題・		介罐站	履修主題 量祉の役割と機能					介護短祉士の役		
履修内容	1	(髙村	喬・橋本・阿部)		多職種連携やチームケアを体験的に学び、介護福祉士の役 割を理解する					
	2	(髙村	冨祉の役割と機能 喬・橋本・阿部)		施設の社会的な役割を学ぶ					
	3	利用者	新理解 (髙橋・ 阿部)	橋	利用者および家族とのコミュニケーションを実践性、その 人らしさを考える					
	4	本・バ			利用者の生活の場、その人の過ごし方を理解する					
	5	本・阝		橋	受け持ち利用者とのかかわりを通して、情報収集の必要性 について学ぶ					
	6	介護第阿部)	(本・	対人援助におけるコミュニケーションの実際を学ぶ					
	7	介護第阿部)		<u>本</u> ・	学内で学んた 術を実践する	知識・技術をもと 。	に、根拠に	基づいた介護技		
	8	介護第阿部)		本・	介護実践・体験を通して、思考過程の醸成を図る					
	9	部)	ミ践(髙橋・橋本		う)生活支援ができ <i>る</i>				
	10	介護第阿部))		学習した知識 はかることか	は・技術を具体的・ 「できる	実際的に体	験し、統合化を		
	11		戦としての役割と (髙橋・橋本・		実践を通して 哀楽を表現す	「気づく力」を養 ⁻ る	い、喜びや	悲しみなど喜怒		
	12	倫理 部)	戦としての役割と (髙橋・橋本・	冏	介護福祉士 <i>σ</i>)専門性を高め人間	力を養う			
	13	倫理(戦としての役割と (髙橋・橋本・阿	部)	 人間性と介護	観を醸成する				
	14		まか詳細は介護福 頁を参照とする	祉実						

恒米拉口	△−−・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	担当教員	阿部	幸恵	手達 は レー ア (中間) ロ 菜 h 2女
授業科目	介護福祉実習	実務 経験	有:	無:	看護師として病院に勤務
対象年次・学期	1年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

	•							
授業科目	高齢者	福祉			担当教員	 小林 智子 		
対象年次・学期	1年・復	 参期		必值	冬・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	た高齢	者福祉(、現在	:、施行されて	り巻く社会環境に いる関連諸制度に 的とします。		
到達目標		技術を月				連諸制度に関する 支えるための具体		
テキスト・ 参考図書等	『最新 出版	社会福	畐祉士養成講座 2	高齢	者福祉』 日	本ソーシャルワー	ク教育学校選	重盟 中央法規
	評価な	方法	評価割合(%)			評価基準		
	試験		80					
評価方法・	レポー		0	定期部	大野 哲学 哲学	態度、授業での種	挿極的 か発言・	や発言内容を総
評価基準	小テス	٢	0				⋇⊯⊭J ' ≎Æ⊟	1 70日で3日で高い
	提出物		0					
履修上の 留意事項	本科目 んあり は分かい 下ノー 様々な	20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 2						
	300							
定收土旺			履修主題	000	12 & 0 & 7.		 为容	
履修主題・ 履修内容	1		履修主題 ロンテーション	高齢		履修! 憲 高齢化の状況	为容	
		者とり	履修主題 エンテーション デンテーション デスタ できる	高齢		高齢化の状況	内容	
	1	者とり 高齢者 取り着 高齢者	履修主題 ロンテーション は シ子高齢社会	高齢 れを	高齢者の定義	高齢化の状況	内容	
	1 2	者とり 高齢者 取り巻 高齢者 取り巻	履修主題 (ファーション)子高齢社会 (の生活実態とこま) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (会) (高齢 れを れを	高齢者の定義 高齢者の生活 社会環境 社会福祉の発 確立	養 高齢化の状況 話実態 経達前史 第二次t	世界大戦後の	
	1 2 3	者とり高齢者取り着高齢者	履修主題 「ファーション フラ高齢社会 「会別では一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	高齢 れを れを	高齢者の定義 高齢者の生活 社会環境 社会福祉の発 確立 保健福祉サー 築 高齢者福祉の	高齢化の状況話実態経達前史 第二次tビスの量的拡大を・ビスの量的拡大を	世界大戦後の	
	1 2 3 4	者とり高齢者取り着取り着の齢者	履修主題 (ファーション (フィーション (フィーン (フィーン (フィー) (フィーン (フィーン (フィー) (フィー) (フィー) (フィーン (フィー) (フ	高齢 れを れを	高齢者の定義 高齢者の生活 社会環境 社会福祉の発 確立 保健福祉サー 築 高齢者福祉の	養 高齢化の状況 野実態 野達前史 第二次は ・ビスの量的拡大・ の理念 会保障制度の概要	世界大戦後の ~ 地域包括ケ	
	1 2 3 4 5	者とり書きる。取りの一般を表現の一般を表現の一般を表現の一般を表現の一般を表現の一般を表現の一般を表現し、一般を表現の一般を表現し、一般を表現り、一般を表現し、一般を表現り、一体の、一般を表現り、一体の、一般を表現り、一体の、一般を表現り、一体の、一般を表現り、一体の、現実も、一体の、現ましましましまり、一般を表現り、一般を表現り、一体の、現り、一般を	履修主題 (ファーション ・ 子高齢社会 ・ の生活実態とこう ・ は会話の生活実態とこう ・ は会話の生活実態とこう ・ は会話を表現境 ・ はるでは、	高齢 れを れを	高齢者の定義 高齢者の生活 社会環境 社会福祉の発 確立 保健福祉サー 築 高齢者福祉の 我が国の社会	議 高齢化の状況 活実態 ・ 送達前史 第二次は ・ ビスの量的拡大・ ・ シ理念 会保障制度の概要 その概要 介護係	世界大戦後の ~ 地域包括ケ	アシステムの構
	1 2 3 4 5 6	者高取高取高取高齢が護備を持続した。	履修主題 「フテーション」 フ子高齢社会 の生活実態とこう さく社会環境 音の生活実態とこう さく社会環境 音福祉の歴史と理 音福祉の歴史と理	高齢 れを れを	高齢者の定義 高齢者の生活 社会環境 社会福祉サー の発展 保験齢が護保 所護保険 介護保険制度	議 高齢化の状況 所実態 所達前史 第二次は デビスの量的拡大を ではない。	世界大戦後の ~ 地域包括ケ 保険財政 保料 要介護認合付	アシステムの構 除者と被保険者
	1 2 3 4 5 6 7	者を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一名を記している。 一とを記している。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはている。 一とをにはないる。 ・名をにはないる。 ・るをにはないる。 ・るをに	履修主題 「ファーション」 フラー酸社会 「クラー酸社会」 「クラー酸性を関係した」 「クラー酸性を関係した。 「クラー酸性を関係した。 「クラー酸性を関係した。 「クラー酸性を関係した。 「クラー酸性を関係した。 「クラー酸性を関係した。 「クラー酸性を関係した。」 「クラー酸性を関係した。」 「クラー酸性を関係した。 「クラー酸性を関係した。」 「クラー	高齢 れを れを	高齢者の定義 高齢者の生活 社会環境 社会福祉の発 保健福祉サー 寒高齢者福祉が 実高齢者福祉の が護保険制度	議 高齢化の状況 話実態 話達前史 第二次は - ビスの量的拡大・ つ理念 会保障制度の概要 での概要 介護係 その概要 保険料 その概要 保険料 をの概要 保険料 をの概要 保険料	世界大戦後の ~ 地域包括ケ 保険財政 保料 要介護認合付	アシステムの構
	1 2 3 4 5 6 7 8	者高取高取高取高の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の	履修主題 「ファーション」 フィーション フィーション フィー・ション では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	高齢 れを 念 念	高齢者の定まる。 高齢者の生活の生活の生活の生活の生活の生活の生活の生活の生活の生活の会立には、 一般では、 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を	議 高齢化の状況 新実態 を達前史 第二次は ・ビスの量的拡大・ ・ビスの量的拡大・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	世界大戦後の ~ 地域包括ケ 保険財政 保料 要介護認合付	アシステムの構
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	者高取高取高取高の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の一角の	履修主題 「ファーション」 フラー酸社会 対の生活実態とこう はく社会環境 がは一般を表現である。 はないでは、 はないではないでは、 はないでは、 はないでは、 はないではないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないで	高齢 れを 念 念	高齢者の定まる。 高齢者の生活 社会環境のの発 保験では、 一般では、 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を	議 高齢化の状況 新実態 を達前史 第二次は ・ビスの量的拡大・ ・ビスの量的拡大・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	世界大戦後の ~ 地域包括ケ 保険財政 保料 要介護認合付 保険事業計画	アシステムの構 険者と被保険者 定 地域支援事業
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	者高取高取高高高介介介介高高齢が、対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対	履修主題 「ファーション」 フィーション アー・ション アー・カー・ アー・カー・ アー・カー・ アー・カー・ アー・カー・ アー・カー・ アー・カー	高 れ 1 念 1 念 1	高齢 計算 では できます できます できます できます できます できます できます できます	議 高齢化の状況 活実態 活達前史 第二次は デビスの量的拡大 ではない。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	世界大戦後の ~ 地域包括ケ K険財政 保 平 要介護認合付 K険事業計画 法 高齢者虐	アシステムの構 除者と被保険者 定 地域支援事業 待防止法
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	者高取高取高高の介介介の高高高け割りを対する。	履修主題 「フラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	高 れ 1 つ つ	高齢 と 社確保築高我介介 介地サー と バの の 生活 を で の の の の の の の の の の の の の の の の の の	議 高齢化の状況 話実態 話達前史 第二次は ・ビスの量的拡大 ・ビスの量的拡大 ・ 世界で制度の概要 ・ 保障制度の概要 ・ 保険制度の概要 ・ 保険制度の能力を ・ 保険制度の能力を ・ 保険制度の ・ 保験制度の ・ 保険制度の ・ 保険制度の ・ 保険制度の ・ 保険制度の ・ 保険制度の ・ 保	世界大戦後の ~ 地域包括ケ K険財政 保 平 要介護認合付 K険事業計画 法 高齢者虐	アシステムの構 除者と被保険者 定 地域支援事業 待防止法
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	者高取高取 高 高 介 介 介 介 高 高 高け割高け割り 齢	履修主題 「フテート・ション・ラード・フラー・フラー・フラー・フラー・フラー・フラー・フラー・フラー・フラー・フラー	高 れ れ 念 念 制 制 にの にの 齢 を を を	高齢 齢 会 会立健 齢が護護 護護域ー 人 リ児 で は 福 不 で の の の の の の の の の の の の の の の の の の	議 高齢化の状況 活実態 活達前史 第二次は ・ビスの量的拡大 ・ビスの量的拡大 ・ 受理障理の概要 を保で概要 保険を をの概要 保険を をの概要 保険を をの概要 保険を をである。 である。 での概要 保険を をである。 である。 である。 での概要 保険を をである。 である。 である。 である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	世界大戦後の ~ 地域包括ケ K険財政 保 平 要介護認合付 K険事業計画 法 高齢者虐	アシステムの構験者と被保険者定地域支援事業

授業科目	高齢者福祉	担当 教員	小林	智子		社会福祉士として成年後見活動
1又来作口	10岁7日1日1111	実務 経験	有:		無:	に従事
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

授業科目	障害のヨ	里解			担当教員	山形	千都子				
対象年次・学期	1年・前	前期		必億	と 選択区分	必修・	2 単位	単位数			
授業形態					授業回数	[回数 15 回			30 時間		
授業目的	害別の	基礎的知 での生活	口識とそれぞれの	障害特	基本となる障害のとらえ方や障害福祉の基本理念を理解し、障害特性に応じた支援のあり方を習得する。障害のある人や家族表える社会資源や多職種との連携・協働、家族支援のあり方を						
到達目標	障害(のあるノ	○障害者福祉の基 人の生活と障害特 人の支援委必要な	性に応	じた支援につ	いて説	明ができる				
テキスト・ 参考図書等		『最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第 2 版』 介護福祉士養成講座編集委員会 法規出版									
	評価フ	方法	評価割合(%)				評価基準				
	試験		70								
評価方法・ 評価基準	レポー	-	0	± b = A	10 July 15 Vi			46 - 1 77 / 77 1			
- 計画季年	小テス 提出物	<u> </u>		試験、	提出物、授業	参 加悲	茂寺、総 台	的に評価し	ます。		
	た山初		10								
履修上の 留意事項	毎回講	ワークで		、積柯	開・目標を提示します。教科書を基本に演習課題を提示しグ 極的に参加し必ず発言をしてください。ホームワークをもと 自己学習に取り組んでください。						
	回		履修主題	<u>υ, ς,</u>	日巳于日に収	· <i>J</i> ಸ <u>ப</u> / <i>U</i>	で、たらい 履修P				
履修主題・ 履修内容	1	障害の) 基礎的理解		オリエンテ- 障害の概念、			公理念			
	2	障害の			障害者福祉の現状と施策						
	3	障害 <i>t</i>	が及ぼす心理的影 -	響に	病気や事故による障害の受容過程と心理的支援方法						
	4	障害別	- 川の基礎的理解と ジた支援	持性	運動機能障害 解と支援	:、視覚	障害、聴覚	む・言語障害	、重複障害の理		
	5	障害別	川の基礎的理解と じた支援	持性		解と支	援(循環器	몽・呼吸器・	泌尿器・消化		
	6	障害別	リの基礎的理解と じた支援	持性	内部障害(H	IV,肝機	能)重症/	心身障害の理	関解と支援		
	7	に応し	リの基礎的理解と! ごた支援		知的障害・精	神障害	の理解とす	泛援			
	8	に応し	リの基礎的理解と ジた支援		精神障害の理	解と支	援				
	9		リの基礎的理解と ジた支援	持性	高次脳機能障	害、発	達障害・歎	誰病の理解と	支援		
	10	障害別	リの基礎的理解と じた支援	持性	演習 アセス	メント	について学	£131			
	11	連携と	:協働		地域のサポー	- ト体制					
	12	連携と	に協働		多職種協働に	よるチ	ームアプロ]ーチ			
	13	家族^	への支援		家族支援の在 家族の介護力		と介護負担	旦の軽減			
	14	当事者 り方	者主体の自立支援(の在	演習事例で						
	15	まとぬ	b		これまでの学	習のま	とめ				

授業科目	障害の理解	担当 教員	山形千都	子	保健師・障害者相談支援専門員と
323111	1711 372 181	実務 経験	有:	無:	して障害者支援従事
対象年次・学期	1年・前期	担当 教員			
授業形態		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	障害者	害者福祉			担当教員	山形 千都子					
対象年次・学期	1年・復			必何	多・選択区分	必修・2 単位	単位数				
授業形態					授業回数	回数 15 回 時間数 30					
授業目的	上で必要	要な知識				者の権利を擁護し 史や現状、各種法					
到達目標	きる。 障害	者福祉の)変遷と現在の法	制度を	€理解し、説明	会環境を知り、現 ができる。 の役割と支援の実					
テキスト・ 参考図書等	『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 8 障害者福祉』日本ソーシャルワーク教育学校 連盟 中央法規出版										
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		70								
評価方法・	レポー	7	0								
評価基準	小テス	7	0	試験、	提出物、授業	参加態度等、総合	的に評価し	ます。			
	提出物		10								
	その他		20			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 	++				
履修上の 留意事項	ループロ	フークで	で深めていくので	、積極	2000年かり 100年 100年 100年 100年 100年 100年 100年 100	します。教科書を ず発言をしてくだ	さい。ホーム				
7 77-7 7 7 7	回し	り授業 (ご演省を行います 履修主題	ので、	自己字省に取 	<u>り組んでください</u> 履修p					
履修主題・ 履修内容	1	7卒 幸 #	<u>- 腹ド土超</u> 		各法律による		<u> </u>	支援内容、理念			
1212131					前期講義の復習						
	2		が記れる歴史		障害観の変遷とノーマライゼーション						
	3		背福祉の歴史 		障害者への処遇と福祉制度の変遷						
	4		番福祉の歴史 			当事者活動、親の		6基本法の改止			
	5		音の生活実態 * 本型は業で対象	TEM 上立:	障害者の生活	f実態と家族の現場	*				
	6	厚書を と課題	音を取り巻く社会 夏	坂 現	バリアフリー	-、障害者虐待					
	7	障害者	音に対する法制度		法制度の全体	\$ 像、身体障害者福	ā祉法、知的	障害者福祉法			
	8	障害者	音に対する法制度		精神保健福祉	L法、発達障害者 st	泛援法、児童	福祉法			
	9	障害者	音に対する法制度		障害者総合支	返援法、自立支援 約	合付				
	10	障害者	首に対する法制度		障害者虐待防	5止法、障害者差別	川解消法、バ	リアフリー法等			
	11	ける 割	障害者と家族等の支援にお ける関係機関と専門職の役 行政・労働・教育・医療機関の役割								
	12	間 障害者と家族等の支援にお ける関係機関と専門職の役 関連する専門職の役割 割									
	13	支援0	支援の実際 障害領域における専門職の役割								
	14	支援0	実際		演習 事例で	で多職種連携による	支援を考え	ర			
	15	まとぬ			これまでの学	望のまとめ					

授業科目	障害者福祉	担当教員	山形千都-	子	保健師・障害者相談支援専門員と
1文未行口		実務 経験	有:	無:	して障害者支援従事
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	人間の尊厳と自立			担当教員	髙泉 一生						
対象年次・学期	1年・1	後期		必何	多・選択区分	必修・2 単位	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的					人権尊重や自立の考え方について理解し、倫理的課題に対応する 倫理観や視点を涵養する。						
到達目標	び福祉明でき	理念に る、 4	ついての概要を説	朗でき ^ら、人	る、 社会福 、権尊重や自己	の仕方を説明でき 祉(介護福祉を含 決定、権利擁護の	む)における	る自立概念を説			
テキスト・ 参考図書等	『最新 規出版	介護福	ā祉士養成講座 1	人間	の理解 第2	版』介護福祉士養	成講座編集委	長員会 中央法			
	評価な	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		0								
評価方法・	レポー	7	40			ョンペーパーの内					
評価基準	小テス	7	0			・ イスカッションに 育定的関心、受動					
	提出物		30			る応答などを総合					
	その他		30								
履修上の 留意事項	として(援助観 ³										
	リ、み'	リ艮い智	答えを追求する姿		まれずに臨むこ	と。	,, , ,,,,,				
居修士 頭 。	回	り良い智	答えを追求する姿 履修主題		えれずに臨むこ 	と。 履修内					
履修主題・ 履修内容		本科目		勢を忘	まれずに臨むこ 人間の尊厳と	履修内					
	回	本科目	履修主題 目を学ぶにあたっ ニンテーション	勢を忘	人間の尊厳と	履修内	內容	ために			
	1	本科目オリエ	履修主題 目を学ぶにあたっ ニンテーション)尊厳	勢を忘	人間の尊厳と 人間の理解、	履修内 に自立とは	内容 ごを理解する				
	1 2	本科E オリコ 人間の 利用者	履修主題 目を学ぶにあたっ ニンテーション)尊厳	対を応	人間の尊厳と 人間の理解、 ICIDH から II	履修内 注自立とは 生活の営みの歴史	内容 こを理解する 重利に関する	条約			
	1 2 3	本科目 オリコ 人間の 利用者 人権思	履修主題 目を学ぶにあたっ ニンテーション D尊厳 音主体 思想の潮流とその P尊厳に関する日	男現	人間の尊厳と 人間の理解、 ICIDH からり 生存権、社会 日本国憲法第 障害者総合式	履修内 注自立とは 生活の営みの歴史 CFへ、障害者の内 除権、ヒューマニス 第13条・第25条、 表接法	内容 で理解する 種利に関する ばム、自由権 社会福祉法	条約 、人権宣言 、介護保険法、			
	1 2 3 4	本オリ間の オース 人 利 人 化 人 諸 社 会 戦 前 と 戦 に かい	履修主題 またでは、またでは、またのでは、またのででである。 を対している。 を述えている。 を述えてい	異現本の理念	人間の尊厳と 人間の理解、 ICIDH からり 生存権、社会 日本国憲法第 障害者総合式	履修内 注自立とは 生活の営みの歴史 CFへ、障害者の内 条権、ヒューマニス 引3条・第25条、 支援法 対貧法、人口論、名	内容 で理解する 種利に関する ばム、自由権 社会福祉法	条約 、人権宣言 、介護保険法、			
	1 2 3 4 5	本オノ 間 用 権 権 規 会 報 会 報 会 報 会 報 会 報 会 報 会 報 会 報 会 報 会	履修主題 またでは、またでは、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが	異現本の理念	人間の尊厳と 人間の理解、 ICIDH からり 生存権、社会 日本国憲法等 障害者総合式 エリザベス対 セツルメント パーソナリラ	履修内 生活の営みの歴史 生活の営みの歴史 CFへ、障害者の相 を権、ヒューマニス 到 13 条・第 25 条、 返接法 収算法、人口論、を 予運動	内容 全を理解する 種利に関する ばム、自由権 社会福祉法 社会ダーウィ	条約 、人権宣言 、介護保険法、 ニズム、COS、			
	1 2 3 4 5	本オ 人 利 人化人諸社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社	履修主題 目を学ぶにあたっ ニンテーション の尊厳 音主体 思想の潮流とその の尊厳に関する日 に関する日 に関する日 に関する日 に関する日 に関する日 に関する日 に関する日 に関する日	関する	人間の尊厳と 人間の理解、 ICIDH からり 生存権、社会 日本国憲法等 障害者総合式 エリザベス対 セツルメント パーソナリラ	履修内 注自立とは 生活の営みの歴史 CFへ、障害者の格 を権、ヒューマニス 到 13 条・第 25 条、 接法 対資法、人口論、を 受資法、人口論、を ディの強化、優生思	内容 全を理解する 種利に関する ばム、自由権 社会福祉法 社会ダーウィ	条約 、人権宣言 、介護保険法、 ニズム、COS、			
	1 2 3 4 5 6 7	本才 人 利 人化人諸社 社 社 社 社 代 人 利 人化人諸社 社 社 社 社 经 经 经 经 经 经 经 经 的 是 时间 一种	履修主題 また学ぶにあたっ 事厳 またの期流とその はまれての はまれての はまれての はまれての はまれての はまれての はなのでである。 はいのでである。 はいのでである。 はいのでである。 はいのでである。 はいのでである。 はいのでである。 はいのでである。 はいのではない。 はいのではいる。 はいのではいる。 はいのではいる。 はいのではいる。 はいのではいる。 はいのではいる。 はいのではいる。 はいのではいる。 はいのはいるはいる。 はいるはいるはいる。 はいるはいるはいる。 はいるはいるはいるはいる。 はいるはいるはいるはいる。 はいるはいるはいるはいるはいる。 はいるはいるはいるはいるはいる。 はいるはいるはいるはいるはいるはいるはいる。 はいるはいるはいるはいるはいるはいるはいるはいるはいるはいるはいるはいるはいるは	対	人間の尊厳と 人間の理解、 ICIDH か、社会 生存本書もサルソナー、公子 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	履修内 注自立とは 生活の営みの歴史 CFへ、障害者の格 を権、ヒューマニス 到 13 条・第 25 条、 接法 対資法、人口論、を 受資法、人口論、を ディの強化、優生思	空を理解する 種利に関する ばム、自由権 社会ダーウィ 思想の人権、 思想の人権、 に記する	条約 、人権宣言 、介護保険法、 ニズム、COS、 貧困問題・人権			
	1 2 3 4 5 6 7 8	本才 人 利 人化人諸社 社 社 社 社 社 代 人 新 人 代 人 新 社 社 社 社 社 经 税 会 戦 会 戦 会 戦 会 戦 会 戦 会 戦 会 戦 会 戦 会 戦 会	履修主題 を学ぶにあたっつ 尊厳 き主体 はの期流とその ははのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またので、またので、またので、またので、またので、またので、またので、またので	動を 現 の 念 念 念 念	人間の尊厳と 人間の理解、 ICIDH か、社会 生存 国書者がメント、公子・ファークでは、ス・ソーのでは、ス・ソーので	履修内 注自立とは 生活の営みの歴史 CFへ、障害者の格 経権、ヒューマニス 13条・第25条、 接法 対資法、人口論、を 対資法、人口論、を 対資法、人口論、を 対資法、人口論、を 対資法、人口論、を 対資法、人口論、を 対資法、人口論、を 対策を表して、高齢 は関助	空を理解する 種利に関する ばム、自由権 社会ダーウィ 思想の人権、 思想の人権、 に記する	条約 、人権宣言 、介護保険法、 ニズム、COS、 貧困問題・人権			
	1 2 3 4 5 6 7 8	本才 人 利 人化人諸社 社 社 社 社 人 人 利 人 化人 人 新 社 社 社 社 社 人 人 社 社 人 工 社 人 工 人 工 人 工 工 人 工 工 工 工	履修主題 またでいた。 またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、	勢て、具本理理理理理工のでは、	人間の尊厳と 人間の理解、 ICIDH か、社会 日本事者がルントースと アーツ・マース・ アージョン・アージーン・アージーン・アージーン・アージーン・アーン・アージーン・アージーン・アージーン・アージーン・アージーン・アージーン・アールーン・アールーン・アールーン・アーン・アーン・アーン・アーン・アーン・アーン・アーン・アーン・アーン・ア	履修内 生自立とは 生活の営みの歴史 CFへ、障害者の構 条権、ヒューマニス 引3条・第25条、 支援法 対資法、人口論、を 支護法、人口論、を 手ィの強化、優生思 によるBT、高齢 でクの7原則、生活 シャルインクルーシ	内容 を理解する を理解する だん、社会ダーウィ は会ダーの 策権、 はもの人権、 にもずっか。 はきずらが、 はきずらが、 はきずらが、 はきずらが、 はきずらが、 はきずらが、 はきずらが、 はきずらが、 はきずらが、 はきずらが、 はきずらが、 はきがらが、 はきがらが、 はきがらが、 はきがらが、 はい、 はい、 はい、 はい、 はい、 はい、 はい、 はい	条約 、人権宣言 、介護保険法、 ニズム、COS、 貧困問題・人権			
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	本才 人 利 人化人諸社 社 社 社 人パ科リ 間 用 権 権規会戦会戦会戦会戦権フィー・ の 者 思 が 近 補 前 補 付 補 イ 報 神 の 者 根 一 な 一 な 一 な 一 な 一 な 一 な 一 な 一 な 一 な 一	履修主題 を学ぶっかり 音を学ぶっかり 音主体の はないでは、またののでは、またので	勢 て 具 本 理 理 理 理 エ	人間の 尊厳 と	履修内に自立とは 生活の営みの歴史 に自立とは 生活の営みの歴史 に下へ、障害者の権 には、ヒューマニス は13条・第25条、 は26法、人口論、を は26法、人口論、を に25年の強化、優生思 に40の7原則、生活 に40の7原則、生活 に40の7原則、生活 に40の7原則、生活	内容と理解するを理解する。 「全を理解するを理解するを理解するをでは、 「会ながらない。」では、 は会がののが、は、 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	条約 、人権宣言 、介護保険法、 ニズム、COS、 貧困問題・人権			
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	本才 人 利 人化人諸社 社 社 社 人 人作 人们 相 用 権 権 提会 戦会 戦会 戦会 戦 全 戦 全 戦権 ワ 利 実	履修主題 を学ぶっかり 音を学ぶっかり 音主体の はないでは、またののでは、またので	動て具本理理理理理理工具本の念念念念念なるなん	人間のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	履修内に自立とは 生活の営みの歴史 とは 生活の営みの歴史 に自立とは 生活の営みの歴史 には ないでは、第一では、名のでは、名のでは、名のでは、名のでは、名のでは、名のでは、名のでは、名の	を理解するる。 を理解関自福祉ウェスをでは、 は会がのの人が、 はいでは、	条約 、人権宣言 、介護保険法、 ニズム、COS、 貧困問題・人権 ーマライゼーシ 存機能を活か			
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	本才 人 利 人化人諸社 社 社 社 人尤権の自科リ 間 用 権 権規会戦会戦会戦会戦権ワ利実立	履修主題 をデーションの尊厳 をデーシの尊厳 を対して、 は、	勢 て 具本理理理理理 エニン支 の 念念念念念 シート 援	人間のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	履修内に自立とは 生活の営みの歴史 とは、生活の営みの歴史 とは、第13条・第25条、 対資法、人口論、を は対象が、では、を は対象が、では、を は対象が、では、を は対象が、では、を はいれば、では、を はいれば、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、できる。 はいれば、では、では、では、できる。 はいれば、では、できる。 はいれば、では、できる。 はいれば、できる。	を理解するる。 を理解関自福祉ウェスをでは、 は会がのの人が、 はいでは、	条約 、人権宣言 、介護保険法、 ニズム、COS、 貧困問題・人権 ーマライゼーシ 存機能を活か			

선생· 보기 다	1 明小毎咲し中立	担当 教員	髙泉	一生	ᄽᄼᆑᆔᆛᆝᆛᆛᆕᇄᄓᅩᅝᅷᅏ
授業科目	人間の尊厳と自立	実務 経験	有:	無:	社会福祉士として病院に勤務
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	人間関係とコミュニケーション			3	担当教員	渡邊	舞				
対象年次・学期	1年・前	前期		必修	・選択区分	必修	・2 単位	単位数			
授業形態				1	授業回数	15 回		時間数	30 時間		
授業目的	心理学	的な側面	面からの対人理解	と援助	技法を学び、	社会福	祉現場で実	践できる力を	を身につける。		
到達目標		. —	を理解し表現する Dコミュニケーシ			用する	ことができ	る。			
テキスト・参考図書等		『最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第 2 版 』 介護福祉士養成講座編集委員会 中芸 法規出版									
	評価	方法	評価割合(%)				評価基準				
	試験		80								
評価方法・	レポー	٢	0	≐式 医金丁	71、哲学内で宝	'施する	海辺の参加	1度 出度锂!	題、授業で使用		
評価基準	小テス	١	0		プリント提出等				医、汉来(风用		
	提出物		10								
履修上の 留意事項	としま	すので、	10 はノート代わりの なくさないよう	に各自	ファイル等を	準備し	てください	。座学中心(D授業ですが、		
	国	グルース	プワークで理解を <u>:</u> 履修主題	深めて 	いきますので	、槓極	的な授業態 履修P		ています。		
履修主題・ 履修内容	1	-			屋條由家,前	7/m I = ~			677 ス		
	2		 人間関係		履修内容・評価について/自分と相手を理解する 自分と他者の理解;私は誰?・相手を知る						
	3		-人間関係 と人間関係		日分と他者の理解;私は証?・相手を知る 発達心理学からみた人間関係;発達段階説と社会性の発達						
	4		と人間関係		社会心理学からみた人間関係;対人認知とグループ・ダイ						
	-				ナミクス 人間関係とストレス; ストレス理論とソーシャルサポート						
	5		と人間関係 関係におけるコミ								
	6	ケーシ	ノョン		コミュニケー	・ション	/の基本構造	5 ; 送り手と 	受け手のしくみ		
	7		関係におけるコミ ション	ュニ	コミュニケー	ション	/の手段 ;	言語的コミ	ュニケーション		
	8	対人隊	関係におけるコミ ション	ュニ	コミュニケ - ン	ション	/の手段 ;	非言語的コ	ミュニケーショ		
	9	対人技	援助関係とコミュ: ョン	ニケ	人間関係の発 と崩壊	展とこ	1ミュニケー	-ション;親	密な関係の発達		
	10	対人担	援助関係とコミュ: ョン	ニケ	対人援助にお	ける基	基本的態度;	受容・共感	・傾聴		
	11	対人抗	援助関係とコミュ:	ニケ	援助的人間関係の形成;バイステックの7つの原則						
		ーショ	ョン		- - 組織における情報の流れ;コミュニケーションの構造						
	12		こおけるコミュニケ	ケー	組織における	情報の)流れ;コミ	ミュニケーシ	ョンの構造		
		組織にション	こおけるコミュニ ^ん こおけるコミュニ ^ん		組織における						
	12	組織に ション 組織に ション	こおけるコミュニ <i>^</i> ノ こおけるコミュニ <i>^</i> ノ こおけるコミュニ <i>^</i>	ケー	組織のおける	対立と	:協力;社会	除的ジレンマ			

授業科目	人間関係とコミュニケーショ	担当教員	渡辺	舞		
IXXIII	ン	実務 経験	有:		無:	
対象年次・学期	1年・前期	担当教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当				
		実務経験				

授業科目	生活支援	技術			担当教員	加藤 聖子						
対象年次・学期	1年・通知	ŧ		必值	を 選択区分	必修・	1 単位	単位数				
授業形態					授業回数	15 回		時間数	30 時間]		
授業目的	づいた介 にかかわ	護実践 る食生	を行うための知	識・技 学び、	さの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基 技術を習得することを目的とする。特に本講義では家庭生活 、さらに家事支援の意義と目的を理解し、様々な場面に応用 る。							
到達目標	・サービ	に関わる基本の知識・技術を身につけ、生活に応用させる。 ス利用者の状態や状況に応じた、安全で効率の良い家事支援とその留意点などにつ ことができる。								ついて		
テキスト・ 参考図書等	中央法規	介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 第 2 版』 介護福祉士養成講座 出版 ガイド食品成分表 2025』 実教出版								員会		
	評価方法	法	評価割合(%)				評価基準					
	試験		60									
評価方法・	レポート		0									
評価基準	小テスト			定期記	は験、講義中の	ミニテ	スト、提出	物から総合的	的に評価	する。		
	提出物		30									
履修上の 留意事項	教室で教 定期試験、	、講義		、提出	出物、実習の取	組姿勢な	から総合的	に評価します				
履修主題・	<u> </u>		履修主題				履修内					
履修内容	1	家庭生	 活の営み		食生活の基本	知識		 [生活の変化				
	2	家庭生	活の営み		食生活の基本知識 栄養の理解(炭水化物、脂質)							
	3	家庭生	活の営み		食生活の基本 タミン)	知識	栄養の理解	ぱ(たんぱく)	質、無機	質、ビ		
	4	家庭生	活の営み		食生活の基本	知識	献立の立て	方・食品の	購入と選	択		
	5	家庭生	活の営み		食生活の基本	知識	高齢者・障	がい者の食	事と調理	<u> </u>		
	6	家庭生	活の営み		食生活の基本	知識	疾患と食事	<u> </u>				
	/		援における介護		調理実習レか 捨てについて	-				•		
	8	家事支	援における介護:	技術	第 1 回調理第 性、技法	習	献立に基っ	びく栄養価計	算、食品	の調理		
	9	家事支	援における介護	技術	"	実習	・反省、次	四の実習に	ついて			
	10	家事支	援における介護	技術	第 2 回調理第 性、技法	習	生活習慣症	予防の食事	、食品の)調理		
	11	家事支	援における介護	技術	<i>II</i>	実習	・反省、次	四の実習に	ついて			
	12	家事支	援における介護	技術	第 3 回調理実 調理性、技法		高齢者・障	がい者向け	の食事、	食品の		
	13	家事支	援における介護	技術	<i>II</i>		・反省、次	(回の実習に	ついて			
	14	家事支	援における介護	技術	第4回調理第調理性、技法		高齢者・障	がい者向け	の食事、	食品の		
	15	家事支	援における介護	技術	<i>II</i>	実習	・反省、全	体のまとめ				

授業科目	生活支援技術	担当教員	加藤	聖子	
		実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1 年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	生活支援	受技術		担当	教員	長尾	勝恵					
対象年次・学期	1年・前	i期		必修・選	訳区分	必修・	1 単位	単位数				
授業形態				授業	回数	15 回		時間数	30 時間			
授業目的	づいた介 援におけ	î護実践 ける家庭	目立支援、生活の! 线を行うための知! 医生活にかかわる! な場面に応用でも	識・技術を 基本知識を	習得する 学ぶこと	ことを目に重点を	的とする 置き、さ	。特に本講	らでは、生活支 しょうしょう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい			
到達目標	・サーヒ	≊生活に関わる基本の知識・技術を身につけ、生活に応用させることができる。 - ビス利用者の状態や状況に応じた、安全で効率の良い家事支援とその留意点など することができる。							-			
テキスト・ 参考図書等		『最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 第 2 版 』 介護福祉士養成講座編集委員会中央法規出版										
	評価方	法	評価割合(%)				評価基準					
	試験		50									
評価方法・ 評価基準	レポート		15	–	1 48 1	.ı. — -	7 I +8 III	ᄡᇭᅪᅩᄽᄼ	か.ー 並./エ 			
可順坐十	小テスト 提出物	`	20 15	正期訊缺、	レルート	・小ケノ	くト・掟正	物から総合	的に評価する。			
	その他		0									
			プリントを使用									
履修上の 留意事項	よって、	授業記	・提出物、実習の耳 十画表に前後して 三授業に参加する。	実施してい	く事があ	るので、						
履修主題・	回		履修主題				履修四	容				
履修内容	1	生活支	え援とは何か	生活	生活を理解する視点・生活支援の基本的な考え方							
	2	家庭生	三活の理解	家庭	重生活の営	みとは	演習					
	3	家庭生	三活の理解	生活	話設計の考	え方(家庭管理)					
ļ.	4	家庭生	三活の理解	生活	5設計の考	え方(家庭経済)	演習				
ļ.	5	家庭生	三活の営み	被刖	3生活の基	本知識	(被服σ	機能・被服	の管理)			
	6	家庭生	三活の営み	被刖	3生活の基	本知識	(被服σ	素材) 演	習			
	7	家庭生	E活の営み		発生活の基		(被服σ					
	8	家庭生	≦活の営み	│被刖 │習	3生活の基	基本知識	(皮膚の)衛生保持・	管理) 問題演			
	9	家庭生	≦活の営み	被刖	〒の裁縫(裁縫の	基本)					
	10	家庭生	三活の営み	被刖	日の裁縫(裁縫の	基本)					
	11	家事支	援における介護技	支術 被刖	日の裁縫(裁縫の	基本)					
	12	家事支	援における介護技	支術 被刖	日の裁縫(裁縫の	芯用)					
	13	家事支	え 援における介護!	支術 被刖	日の裁縫(裁縫の	芯用)					
	14	家事支	返援における介護	技術 被服の裁縫(裁縫の応用)								
	15	まとぬ		重要	要項目の確	『認と演	習問題					

授業科目	生活支援技術	担当教員	長尾	勝恵	
		実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	生活支援技術		担当教員	橋本 亮太				
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修・3 単位	単位数			
授業形態			授業回数	45 回	時間数	90 時間		
授業目的	本人主体の生活が継続できるよう、介護を必要とする対象や様々な場面における根拠に基づいた 介護実践を行うための知識・技術を学習する。							
到達目標	その方の状況や場面に合わせて、『障害などがあってもこれまでの生活が継続されるように現在の 状態を把握し、潜在能力を引き出す』『自立を目指してできる能力を伸ばしていく』といった個別 性を重視した介護を展開できるようになる。							
テキスト・ 参考図書等	中央法規出版	福祉士養成講座 6 福祉士養成講座 7				巫編集委員会 巫編集委員会		
	評価方法	評価割合(%)		評価基準				
	試験	60						
評価方法・ 評価基準	レポート 小テスト	10	その供については	中仕掛け作りでき	i価レ オ ァ			
и прет	提出物	10	その他については、	夫权连成仏派の計	<u>-</u> 1ЩС9 る。			
	その他	20						
履修上の 留意事項	・介護実習室 ・介護技術の 重要となる。	・教科書に基づき講義・演習し、必要に応じて参考資料配布・DVD・AR 等を活用する。 ・介護実習室にて演習を行う場合『介護技術学内実習の受け方』に従う。 ・介護技術の基本をマスターできるように、繰り返しの練習とその根拠を知った上で行うことが 重要となる。各自の積極性が求められ、授業時間以外においても復習が必要となり常に何ができ て何が不充分であるかを確認しながら行ってほしい。						
履修主題・	回サナ	履修主題	+/=	履修[内容			
履修内容	1 1 1	となる介護技術とI 喬本)	ュー 生活支援技術	生活支援技術を学ぶにあたって				
		者体験(橋本)		高齢者・片麻痺体験				
	3 (橋:		移動の基礎知	移動の基礎知識、ボディメカニクスの理解				
	4 (橋:		本位支換~1	体位変換~上方移動・水平移動~				
	5 (II		体位变換~質	体位変換~背面法・対面法~				
	6 自立 (工)	こ向けた移動の介詞 藤)	体位变换~仰	体位変換~仰臥位 端座位 立位~				
	/ (Ii		14112 发換~14	ア以位 端座位 ご	7位~			
	8 (Ii		14111変換の係	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
	(Ii		14112212 東	ミ技チェック / 振り)返りシート	作成】		
	1 10 1	こ向けた移動の介語 籐・橋本)	単いす移動	(屋内)				
		こ向けた移動の介詞 藤・橋本)	単いす移動	(屋内)				
	12 自立	こ向けた移動の介語 で高いた移動の介語 でである。	準 車いす移動	(屋外)				
		こ向けた移動の介語	護褥瘡の予防、	安楽な体位の保持	き、車いすの	基礎知識		
		こ向けた移動の介記	様々な移乗方	ī法				
		こ向けた移動の介記	ぎ ベッド 車に)すの移乗				
	16 自立 (橋:	- こ向けた移動の介記 本)	ぎ ベッド 車に	 Nすの移乗				
		こ向けた移動の介記	ぎ ベッド 車に	1すの移乗				

18	自立に向けた移動の介護 (橋本)	移乗【実技チェック/振り返りシート作成】
19	(個本) 自立に向けた食事の介護 (橋本)	食事の基礎知識、具体的支援内容
20	自立に向けた食事の介護 ST との連携(橋本)	嚥下のメカニズムと嚥下の観察や食事時のポジショニン グ、トロミについて、嚥下体操
21	自立に向けた食事の介護 (橋本)	食事介助の体験
22	自立に向けた排泄の介護 (橋本)	食事介助の体験
23	自立に向けた排泄の介護 (橋本)	排泄の基礎知識~リハビリパンツ体験~
24	自立に向けた排泄の介護 (橋本)	トイレでの排泄介助(リハビリパンツ、尿とりパッド)
25	自立に向けた排泄の介護 (橋本)	尿器、便器、ポータブルトイレ、パウチ
26	自立に向けた排泄の介護 (橋本)	紙おむつ ~対面法~
27	自立に向けた排泄の介護 (橋本)	紙おむつ ~背面法~
28	自立に向けた排泄の介護 (橋本)	紙おむつ ~下衣一式~
29	自立に向けた排泄の介護 (橋本)	排泄【実技チェック/振り返りシート作成】
30	自立に向けた排泄の介護 (橋本)	立位での紙おむつ、布おむつ
31	介護実技試験対策 (橋 本)	介護実技試験対策
32	介護実技試験対策 (橋 本)	介護実技試験対策
33	介護実技試験対策 (橋 本)	介護実技試験対策
34	介護実習の振り返り (橋 本)	介護実習の振り返り
35	介護実習の振り返り (橋 本)	介護実習の振り返り
36	自立に向けた移動の介護 (橋本)	杖歩行
37	自立に向けた移動の介護 (橋本)	福祉用具を用いた介助
38	自立に向けた移動の介護 (橋本)	日常生活道具を用いた介助
39	居住環境の整備 (橋本)	住まいの役割と機能
40	居住環境の整備 (橋本)	生活空間
41	居住環境の整備 (橋本)	快適な室内環境
42	居住環境の整備 (橋本)	安全に暮らすための生活環境
43	居住環境の整備 (橋本)	居住環境の整備における多職種との連携 まとめ
44	介護福祉士国家試験対策 (橋本)	介護福祉士国家試験に向けた模擬問題
45	まとめ(橋本)	生活支援技術のまとめ

授業科目	生活支援技術	担当 教員	髙橋	綾		介護福祉士としてケアハウスに
1又来11口	工/日文1及1X世]	実務 経験	有:		無:	勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

授業科目	生活支持	援技術			担当教員	髙橋 総	专		
								W 12-WL	
対象年次・学期 	1年・追			必個	多・選択区分 	必修・2	単位	単位数	
授業形態					授業回数	30 回		時間数	60 時間
授業目的	この科目で学ぶ介護技術は、単に介助の方法を学ぶだけでなく、その人がこれまでの生活習慣で 獲得してきた様式や個性に着目して支援することの大切さを学びます。また、「老い」や「障害」 等の見える部分のみを捉えて支援するのではなく、その人を取り巻く環境(人・物)や周囲との 関係(相互作用)性等を多角的に捉え、根拠に基づく介護実践(知識と技術の習得)を目指しま す。							い」や「障害」 勿)や周囲との 得)を目指しま	
到達目標	様々な日常生活行為における意義と目的を説明することができる。 様々な日常生活行為におけるアセスメントの視点を養い、それらを述べることができる。 なぜそのように支援するのか、支援の根拠を理解し述べることができる。 介助におけるポイントや留意点を踏まえ、安全で正確な介助を実施することができる。							こ支援するの	
テキスト・ 参考図書等	中央法	規出版	畐祉士養成講座 6 畐祉士養成講座 7			第2版』 第2版』			E編集委員会 E編集委員会
沙方因自守	中央法		=世工長/以碑/生/	土 /山	又1及1又1/11	#¤ ∠ /IX 』	八 吃缸	111工食水喘/5	E 쀄来安貝公
	評価ス	方法	評価割合(%)			į	評価基準		
	試験		60	_					
評価方法・	レポー	٢	0	定期記	战験:生活行為	の意義・	目的、ま	た、支援の	根拠等の理解度
評価基準	小テス	٢	0		LTする。 也:実技達成状	SD (2004	/ 拉来:	次数 (400/)	、レオス
	提出物		0 40	~ W)(3.关权连风4/	元(30%	人 技夫:	女努(10%)) と りる。
履修上の 留意事項	教科 使用しる 場合「2 解した」	ます。 介護技術 上で繰り	 	員より 方」に 勢が重) 口腔ケア講習 :従ってくださ i要です。関連	を受講し い。 介	ます。 護技術の	介護実習室に 習得には、村	こて演習を行う 艮拠を正しく理
		O TO TO TO TO	履修主題	,0,0,7	•		履修 /	内容	
履修主題・ 履修内容	1		:なる介護技術と ヾッドメイキング 喬)		生活支援技術を学ぶにあたって、ベッドメイキングの基礎 知識				
	2		ドメイキング (髙	シーツの畳み方、敷き方(三角コーナー・四角コーナー) 《実技》				
	3	ベット			《実技》	ト万、敷き		3 -	四角コーナー)
		橋)	ドメイキング (《実技》 敷き方(三角				《実技》
	4	橋) ベット 橋)	・メイキング (・メイキング (髙		コーナー	・四角ニ	1ーナー)	
	4 5	橋) ベット 橋) 自立に 護 (ドメイキング (ドメイキング (こ向けた身じたく (髙橋)	髙 の介	敷き方(三角	ヨコーナー	・四角ニ	1ーナー)	《実技》
		橋) ベット 橋) 自立に i 自立に 護 (ドメイキング (ドメイキング (こ向けた身じたく (髙橋) こ向けた身じたく (髙橋)	の介の介	敷き方(三角	コーナーでのシーコ識、前開	・四角コッ交換	1ーナー) 《実技》 類の着脱(座	《実技》
	5	橋) ベット 信立に 自立に 自 進立に 自 護	ドメイキング (ドメイキング (ドメイキング (こ向けた身じたく (髙橋) こ向けた身じたく (髙橋) こ向けた身じたく (髙橋)	高の介の介	敷き方(三角 臥床したまま 着脱の基礎知	コーナーでのシーコ識、前開	・四角コ ツ交換 Bきの衣類 座位)	1-ナー) 《実技》 質の着脱(座 《実技》	《実技》
	5	橋) ベ橋) 自護自護自護自護 自護 (にには)	ドメイキング (ドメイキング (に向けた身じたく (高橋) に向けた身じたく (高橋) に向けた身じたく (高橋) に向けた身じたく (高橋) に向けた身じたく	高の介の介の介	敷き方(三角 臥床したまま 着脱の基礎知 前開きの衣類	コーナーコ識、前開の着脱(座位	・四角コック換 ラの衣類 座位) でもしている。	1-ナー) 《実技》 類の着脱(座 《実技》 《実技》	《実技》
	5 6 7	橋) ベ橋) 自護 自護 自護 自護 自護 自護 はいにいる はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます	ドメイキング (ドメイキング (ドメイキング (こ向けた身じたく こ向情) こ向けた身じたく (髙橋) こ向けた身じたく (髙橋) こ向情た身じたく (髙橋) こ向橋)	高の介の介の介	敷き方(三角 臥床したまま 着脱の基礎知 前開きの衣類 丸首衣類の着	コーナーでのシーコ識、前開の着脱(座位原の着脱(・四角コック換 さの衣類 座位) エ・臥位) 以位)《	1-ナー) 《実技》 類の着脱(座 《実技》 《実技》	《実技》
	5 6 7 8	橋) へ橋) で 橋) で 橋) で 橋) で 橋) で () に	ドメイキング (ドメイキング (ドメイキング (「 このはたり。 このはたり。 このはいからいたく にのはいからいたく にのはいからいたく にのはいからいたく にのはいからいたく にのはいからいたく にのはいからいたく にのはいからいたく にのはいからいたく にいるにはいからいたく	高 の介 の介 の介	敷き方(三角 臥床したまま 着脱の基礎知 前開きの衣類 丸首衣類の者 前開きの衣類	コーナーコ識、前開の着脱(座位原の着脱(原の着脱(・四角二 ツ交換 きの衣類 座位) こ・臥位) 臥位)《記	1-ナー) 《実技》 類の着脱(座 《実技》 《実技》 実技》	《実技》
	5 6 7 8 9	橋) へ橋 () に ()	ドメイキング (ドメイキング (ドメイキング (「 この情の) にたく (この情が) にたく (この情が) にたく (この情がないです。 (この情がないですないです。 (この情がないですないですないですないですないですないですないですないですないですないです	高 の介 の介 の介 の介	敷き方(三角 臥床したまま 着脱の基礎知 前開きの衣類 丸首衣類の者 前開きの衣類 前開きの衣類	コーナーでのシーコ識、前開の着脱(座位の着脱(座位の着脱(原の着脱(・四角コンツ交換 一きの衣料 座位) 「・臥位) 「 いし) 「 いし) 「 いし) 「 いたが、 いたが、 いたが、 いたが、 いたが、 いたが、 いたが、 いたが、	1-ナー) 《実技》 類の着脱(座 《実技》 《実技》 実技》 実技》	位)《実技》
	5 6 7 8 9	橋で橋自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自	ドメイキング (ドメイキング (バー・シーグ (で) (() () () () () () () () () () () () () (高の介の介の介の介の介	敷き方(三角 臥床したまま 着脱の基礎知 前開きの衣類 丸首衣類の表類 前開きの衣類 前開きの衣類 前開きの衣類	コーナーコ識、前開の着脱(座位の着脱(座の着脱(をなった)	・四角コック換 ラの衣類 座位) ・臥位)(動位)(着脱(ま 振り返り	コーナー) 《実技》 類の着脱(座 《実技》 《実技》 実技》 実技》	《実技》 位) 《実技》
	5 6 7 8 9 10	橋へ橋自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自持のにいる。	ドメイキング (ドメイキング (・ 人 の に に に に に に に に に に に に に に に に に に	高の介の介の介の介の介	敷き方(三角 別床したません。 着脱の基礎知 前開きの表類 前開きの表類 前開きの表類 前開きるの表類 日常による。	コーナーコ識、前開の着脱(原の着脱(原の着脱(原の着脱(原の着脱(原の着脱(原の一般)の一つ一つでは、から、	・四角コック換 かって かいまま かいまま できまる かいまま かいまま できまる かいまま できまる かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かい	コーナー) 《実技》 類の着脱(座 《実技》 《実技》 実技》 実技》 ま技》	《実技》 位) 《実技》
	5 6 7 8 9 10 11	橋で橋自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自護自	ドメイキング (ドメイキング (バーキング (バーキング (バーキング (バーキー・ (高の介の介の介の介の介の介	敷き方(こままま) 対応したまでは、 対応をした。基礎が、 対ので、類ので、類が、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して	コーナーでのシー開のが、前院の着脱の着脱のを開いている。一番では、アントの	・四角コック換 かって かいまま かいまま できまる かいまま かいまま できまる かいまま できまる かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かい	コーナー) 《実技》 類の着脱(座 《実技》 《実技》 実技》 実技》 ま技》	《実技》 位) 《実技》

16	自立に向けた入浴・清潔保 持の介護 (髙橋)	手浴・足浴の介護
17	自立に向けた入浴・清潔保 持の介護 (髙橋)	臥床しての洗髪介護 《実技》
18	自立に向けた入浴・清潔保 持の介護 (髙橋)	臥床しての洗髪介護 《実技》
19	自立に向けた入浴・清潔保 持の介護 (髙橋)	ハンドマッサージ 《実技・練習》、シャボンラッピング
20	自立に向けた入浴・清潔保 持の介護 (髙橋)	ハンドマッサージ 《実技・実践》
21	自立に向けた入浴・清潔保 持の介護 (髙橋)	ハンドマッサージ 《実技・実践》
22	自立に向けた身じたくの介 護 (髙橋)	整容(爪・ひげそり)の介助《実技》 《実技》
23	自立に向けた身じたくの介 護 (髙橋)	口腔ケア 《実技》
24	自立に向けた身じたくの介 護 (髙橋)	口腔ケア 《実技》
25	休息と睡眠環境を整える (髙橋)	休息と睡眠の基礎知識、睡眠の介護と多職種連携
26	休息と睡眠環境を整える (髙橋)	休息と睡眠の基礎知識、睡眠の介護と多職種連携
27	実技のまとめ (髙橋)	実技のまとめ
28	実技のまとめ (髙橋)	実技のまとめ
29	介護福祉士国家試験対策 (髙橋)	介護福祉士国家試験対策
30	介護福祉士国家試験対策 (髙橋)	介護福祉士国家試験対策

授業科目	生活支援技術	担当教員	橋本	亮太		介護福祉士として特別養護老人 ホームに勤務
		経験	有:		無:	
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

授業科目	認知症(定の理解			担当教員	担当教員 宮下 史惠				
対象年次・学期	1年・前	前期		必作	冬・選択区分	必修・2 単位	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	認知症	認知症についての理解を深めるとともに、認知症の人の理解を深めていきます。								
到達目標	認知症。	認知症とは何か、認知症をきたす様々な疾患について説明できることを目標とします。								
テキスト・ 参考図書等	央法規(出版 図書)『				32版』 介護福祉 四知症をもつ人た				
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		70							
評価方法・	レポー		20	定期診	お除 70% しょ	ポ ート 20% 、ミニ	テスト 10%	とし判断しま		
評価基準	小テス	١	10	す。		. 1 20 %	. 7 7 10 70			
	提出物		0							
履修上の 留意事項	材、グル	ループラ うえで、	ディスカッション 必ず身に付けた	などに	よりさらに理	に、授業展開をし解を深めていきま。 自ら学ぶ姿勢を	す。この授業	業は介護福祉士		
履修主題・	回		履修主題 ———————		-L-1	履修				
履修内容	1	オリコ	ロンテーション		本授業の進め方、キーワード、認知症からイメージするも の					
	2	認知症	i とは		認知症の特徴 脳のしくみ 初期の生活障害					
	3	認知症	まとは		脳を構成する細胞 脳の働き					
i	4	認知症	まとは		脳の構造と症状の関係をせん妄、老化との関係					
	5		きの人の心理	115	パーソン・センタード・ケア DVD 鑑賞					
	6	認知犯	言のさまざまな症	状	中核症状の理解					
	7	認知症	iのさまざまな症	状	生活障害の理解					
	8	認知症	iのさまざまな症	状	BPSD の理解	¥				
	9	認知症	を できない こうしゅう こうしゅう こうしゅう こうしゅう しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅう		認知症の診断	f、原因疾患と症状	犬・生活障害			
	10	認知症	節の原因疾患		アルツハイマ	?一型認知症 血管	含性認知症			
	11	認知症	節の原因疾患		レビー小体型	以認知症 前頭側頭	頂型認知症	他		
	12	認知症	きの予防		認知症の歴史	、予防・危険因	7			
	13	認知症	臣のケア		認知症ケアの)理念と視点				
	14	認知症	臣の人の体験		認知症当事者	が視点				
	15	まとぬ	<u></u>		認知症の理解	を通して				

授業科目	認知症の理解	担当教員	宮下	史惠	Ī.	介護福祉士として社会福祉協議
		実務 経験	有:		無:	会に勤務
対象年次・学期	1年・前期	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

授業科目	発達と	老化の理	里解		担当教員	阿部 幸惠			
対象年次・学期	1年・沪	通年		必何	多・選択区分	必修・4 単位	単位数		
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間	
授業目的						・社会的変化及び するために必要な			
到達目標	介護実施がある。		要な根拠となる心	身の構	5 造、機能、発	達段階とその課題	夏及び特徴的	な疾病について	
テキスト・ 参考図書等	中央法	規出版	冨祉士養成講座 1 からだの地図帳			第2版』介護福 講談社	冨祉士養成講	極編集委員会	
	評価な	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		70			は、単元ごとに			
評価方法・	レポー		0			、DVD 鑑賞後の 提出を求めます。	感想その他必	が要に応じてプリ 	
評価基準	小テス	١	10	・左診	己「その他」は	、積極的発言や抗	受業参加姿勢	、必要資料の準	
	提出物		10		となるとと ●総合的に勘案	∵が含まれます。 ÷します。			
履修上の 留意事項	毎回内?	に来てく	<u> </u>	いよう	た自己の体調	を理をしてくださ かしてください。	い。休んだ	際は必ず担当ま	
定收十時.			履修主題	0 15(12		履修	内容		
履修主題・ 履修内容	1		章 人間の成長と 壁的知識	:発達	オリエンテーション 成長・発達の考え方				
	2	第1章	章 人間の成長と 壁的知識	:発達	成長・発達の原則・影響する要因				
	3	発達認			発達理論・発達段階と発達課題				
	4	発達認			身体的機能の成長と発達 心理的機能・社会的機能の発達				
	5	第3章 達課是	章 老年期の特徴 夏	はと発	老年期の定義	も 老化とは			
	6	第 3 章 達課是	章 老年期の特徴 夏		老年期の発達	は課題 老年期を	かぐる今日的	課題	
	7	とから	章 老化に伴うこ らだの変化と生活	i i	老化に伴う身	体的な変化と生活	舌への影響		
	8	とから	章 老化に伴うこ らだの変化と生活	i .	老化に伴う身	体的な変化と生活	舌への影響		
	9		章 老化に伴うこ らだの変化と生活		老化に伴う身	体的変化と生活へ	への影響		
	10	第4章	章 老化に伴うこ らだの変化と生活	ころ	老化に伴う心 ーソナリティ)理的な変化と生活	舌への影響	注意と記憶 パ	
	11		章 老化に伴うこ らだの変化と生活		老化に伴う社	上会的な変化と生活	舌への影響	老化理論	
	12	第5章	章 高齢者と健康	ŧ	高齢者の健康 と特徴を理解	₹が注目されるよう ¥する	うになった背 	景と疾患の症状	
	13	第3額	章 高齢者と健康 節 高齢者に多い 症状と生活上の留	疾	骨関節系(骨	骨粗鬆症・骨折なる	뜨)		
	14	第3額	章 高齢者と健康 節 高齢者に多い 症状と生活上の留	疾	骨関節系(変 マチなど)	変形性膝関節症・腸	要部脊柱管狭	窄症、関節リウ	
	15	第3頁 患・症	章 高齢者と健康 節 高齢者に多い 症状と生活上の留	族 意点	脳・神経系(「パーキンソン病」)		
	16	第3額	章 高齢者と健康 節 高齢者に多い 宣状と生活上の留	疾	脳・神経系([脳血管疾患)			

17	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾 患・症状と生活上の留意点	脳・神経系(脳血管疾患)
18	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾 患・症状と生活上の留意点	皮膚・感覚器系(白内障・緑内障・黄斑変性症・難聴・皮 膚疾患)
19	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾 患・症状と生活上の留意点	循環器系(高血圧・虚血性心疾患・不整脈・心不全・閉塞 性動脈硬化症)
20	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾 患・症状と生活上の留意点	循環器系(高血圧・虚血性心疾患・不整脈・心不全・閉塞 性動脈硬化症)
21	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾 患・症状と生活上の留意点	呼吸器系(慢性閉塞性肺疾患・肺炎・喘息・結核)
22	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾 患・症状と生活上の留意点	消化器系(消化性潰瘍・逆流性食道炎・肝硬変など)
23	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾 患・症状と生活上の留意点	腎・泌尿器系(前立腺肥大症・尿路感染症・慢性腎臓病・ (復習/尿失禁))
24	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾 患・症状と生活上の留意点	内分泌・代謝系(糖尿病・脂質異常症・痛風など)
25	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾 患・症状と生活上の留意点	歯・口腔疾患(歯周病・ドライマウス) 悪性新生物(概要・変遷・法律など)
26	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾 患・症状と生活上の留意点	さまざまな悪性新生物(がん)ついて
27	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾 患・症状と生活上の留意点	感染症(ウィルス性呼吸器感染症・感染性胃腸炎・胆のう 炎・胆管炎・疥癬)
28	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾 患・症状と生活上の留意点	精神疾患(うつ病・統合失調症)
29	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾 患・症状と生活上の留意点	その他(熱中症・脱水・貧血) 多職種連携
30	まとめ	今までの振りかえりとまとめ

授業科目	発達と老化の理解	担当教員	阿部	幸恵	看護師として病院に勤務
5文未代日	光廷○七化の注解	実務 経験	有:	無:	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	キャリ	アデザ~	イン	‡	担当教員	田中 航	田中航			
対象年次・学期	1年・道	五年		必修	・選択区分	必修・1 単位	単位数			
授業形態				ž	受業回数	8 🛮	時間数	15 時間		
授業目的	にどう	すれば目			ありたい』という自己イメージを明確にし、その実現のため もに、4年間を見据えた各学年における方向性を構想・実践					
到達目標	送るこ。 レポ・	とができ - トの基		関解し作	成できる。	習慣を身につけ自	己管理しなが	がら学生生活を		
テキスト・ 参考図書等										
	評価方法 評価割合(%)					評価基準				
	試験		0							
評価基準	レポー	٢	30	1 . . 12	レポート及び提出物(提出状況や内容) モノグサの理解度等に					
	小テス	- 7 - 0 -			ト及ひ提出物 的に評価する	•	・人 モノクリ	の理解及寺に		
	提出物		30							
	その他	- /	40	- 	+ + //					
履修上の 留意事項	なること	とを心持を履修す	掛けてください。 することで、自分	かり	についての方	標に向かい行動を 向性を持ち、その ことを期待します	実現のための	-		
履修主題・			履修主題			履修 個	内容			
履修内容	1	オリコ	ロンテーション		キャリアデザインとは 学生生活(4年間)の全体像と到達点の理解					
	2	学生生	上活について		学生生活のイ	メージ形成と自己	2管理			
	3	学習0	D準備として		レポート作成	に必要な基本事項	真の理解			
	4	自己を	王理解する		自分を理解し	、 実習に向けて <i>の</i>)個人目標が	たてられる		
	5	対人挑	援助専門職の理解	Į.	介護福祉実習	の振り返りと今	後の課題			
	6	先輩が	いら学ぶ・学科内	交流	学校生活の過	量ごし方・学習の仕	方を聞き、	問題解決を図る		
	7	活	員の職業理解と学		理解を図る	\ら相談員の職業理				
	8	1 年間 価	の振り返りと自	己評	1年間を振り返り、今後の課題を明確化する(クラス目標 含む)					

授業科目	キャリアデザイン	担当 教員	田中	航		精神保健福祉士として就労継続
1文未行口	T P D D D D D	実務 経験	有:		無:	支援事業所に勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

授業科目	こころとからだのしくみ				担当教員	喜田 俊恵				
 対象年次・学期	1 年・ji	 通年		必但	 多・選択区分	必修・4 単位	単位数			
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間		
授業目的						学ぶ。身じたく、 び心理的側面への				
到達目標	きる。		乍を行う為の身体 するにあたり、ケ			専門職としての必 ことができる。	要な知識をi	述べることがで		
テキスト・ 参考図書等	『最新 委員会		晶祉士養成講座 1 去規出版	1 7	ころとからだの)しくみ 第2版。	」 介護福祉	士養成講座編集		
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		50							
評価方法・ 評価基準	レポー		0	・定期	朗試験、小テス	.ト、授業への取組	1姿勢・参加	態度を総合的に		
- 計画季年	小テス 提出物	<u> </u>	30		少ます。					
	たの他		20							
履修上の 留意事項	教科書に基づき講義・演習と定期				こ小テストを行います。生活支援技術と関連付けて学習して がたくさんあります。積極的に授業に参加して、知識を深め					
履修主題・			履修主題		履修内容					
履修内容	1	オリコ			こころとからだのしくみとは何か 授業の進め方について					
	2	22.5	ろのしくみを理解	する	人間の欲求とは・自己実現と尊厳・こころのしくみの基礎					
	3	からた	ごのしくみを理解	する	からだのしくみ					
	4	からた	ごのしくみを理解	する	からだのしくみ					
	5	からた	ごのしくみを理解	する	からだのしくみ・演習					
	6		こ関連したこころ Dしくみ	とか	移動のしくみ					
'	7	移動に	に関連したこころ のしくみ	とか	心身の機能低下が移動に及ぼす影響					
'	8	移動は	に関連したこころ のしくみ	とか	変化の気づきと対応・演習					
	9	身じた	とくに関連したこ らだのしくみ	ころ	身じたくのし	くみ				
	10	身じた とから	とくに関連したこ らだのしくみ		身じたくのし	くみ				
	11	とから	とくに関連したこ らだのしくみ		心身の機能低	£下が身じたくに <i>】</i>	及ぼす影響			
	12	とから	こくに関連したこ らだのしくみ		変化の気づき	きと対応・演習				
	13		こ関連したこころ りしくみ	とか	食事のしくみ	,				
	14	食事に らだの	こ関連したこころ ひしくみ		食事のしくみ	,				
	15	らだの	に関連したこころ りしくみ		心身の機能低	低下が食事に及ぼす				
	16		こ関連したこころ りしくみ	とか	変化の気づき	さと対応・演習				
	17	入浴	<u>>0、の</u> ・清潔保持に関連 ろとからだのしく		入浴・清潔係	 発持のしくみ				
	18	入浴	・清潔保持に関連 るとからだのしく	した	入浴・清潔保	発持のしくみ				
	19	入浴	・清潔保持に関連 ろとからだのしく	した	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響					

20	入浴・清潔保持に関連した こころとからだのしくみ	変化の気づきと対応・演習
21	排泄に関連したこころとか らだのしくみ	排泄のしくみ
22	排泄に関連したこころとか らだのしくみ	排泄のしくみ
23	排泄に関連したこころとか らだのしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響
24	排泄に関連したこころとか らだのしくみ	排泄での変化の気づきと対応・演習
- 75	休息・睡眠に関連したここ ろとからだのしくみ	休息・睡眠のしくみ
26	休息・睡眠に関連したここ ろとからだのしくみ	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響
27	休息・睡眠に関連したここ ろとからだのしくみ	変化に気づくためのポイント
28	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	「死」を理解する。終末期から「死」までの変化と特徴
29	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	「死」に対するこころの理解
30	人生の最終段階のケアに関 連したこころとからだのし くみ	医療職との連携のポイント・全体のまとめ

恒業权口	こころとからだのしくみ	担当 教員	喜田	俊恵	看護師として病院に勤務
授業科目	ここうとがらためひくみ	実務 経験	有:	無:	1日
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	ソーシャルワークの基盤と専 門職			担当教員	当教員 福島 令佳					
対象年次・学期	1年・前	前期		必修・選択区分	必修・2 単位	単位数				
授業形態				授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的	ソーシャ 解の導 <i>)</i>			基盤となる価値・知	識を身につけ、ソ	ーシャルワ-	-ク実践への理			
到達目標			-クの概念、基盤。 E目標とする。	となる考え方、倫理	、ソーシャルワー	クの形成過種	呈について、説			
テキスト・ 参考図書等			福祉士・精神保健 7教育学校連盟 「	福祉士養成講座 11 中央法規出版	ソーシャルワーク	の基盤と専	門職』 日本ソ			
	評価方	法	評価割合(%)		評価基準					
	試験		70							
評価方法・	+x /x + 24									
評価基準				定期試験の結果や提	!出物で評価する。					
	提出物		30							
	その他	の他								
履修上の 留意事項		会福祉士	・精神保健福祉	土の実践の基盤を理						
履修主題・	回		履修主題		履修 履	内容				
履修内容	1	オリコ	ニンテーション	本授業の進め 意義	本授業の進め方・評価基準、3 つの国家資格をもつことの 意義					
	2	社会福		現代社会の理	現代社会の理解					
					社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法					
	3		福祉士及び精神保保 O法的な位置づけ	建福 社会福祉士及	なび介護福祉士法、	精神保健福	祉士法			
	3 4	祉士の		社会偏位工が		精神保健福	祉士法			
		祉士σ ソーシ	法的な位置づけ	社会偏化工が ソーシャルワ		精神保健福	祉士法			
	4	<u>祉士の</u> ソーシ ソーシ	D法的な位置づけ √ャルワークの概だ ✓ャルワークの概だ ✓ャルワークの基質 続え方	社会福祉工が	リークの定義		祉士法			
	4 5	社士の ソーシ ソーシ ソーシ ストシ ストシ ストシ	D法的な位置づけ ・マルワークの概定 ・マルワークの概定 ・マルワークの基質 ・マルワークの形態 ・マルワークの形態	社会福祉工が ソーシャルワ メーシャルワ ソーシャルワ びゅ ソーシャルワ びゅう ソーシャルワ	7 - クの定義 7 - クの構成要素 7 - クの原理、理念		祉士法			
	4 5 6	社 ソ ソ ソなソ程ソ程 フラッション	が法的な位置づけ ・ヤルワークの概定 ・ヤルワークの概定 ・ヤルワークの基準 ・オルワークの形態 ・ヤルワークの形態	在会福祉工が ソーシャルワ	7 - クの定義 7 - クの構成要素 7 - クの原理、理念	ì	祉士法			
	4 5 6 7	社 ソ ソ ソなソ程ソ程 フラッション	D法的な位置づけ ・マルワークの概定 ・マルワークの概定 ・マルワークの基質 ・マルワークの形態 ・マルワークの形態	在会福祉工が ソーシャルワ	リークの定義 リークの構成要素 リークの原理、理念 リークの源流 リークの基礎確立其	ì	祉士法			
	4 5 6 7 8	社ソ ソソなソ程ソ程ソ程ソ程リ程リ程 ーー・コーー・コーー・コーニー・コーニー・コーニー・コーニー・コート	の法的な位置づけ ・マルワークの概定 ・マルワークの基準 ・マルワークの形態 ・マルワークの形態 ・マルワークの形態 ・マルワークの形態 ・マルワークの形態	社会福祉工が	リークの定義 リークの構成要素 リークの原理、理念 リークの源流 リークの基礎確立其	R	祉士法			
	4 5 6 7 8 9	社ソ ソソなソ程ソ程ソ程ソ程リ程リ程 ーー・コーー・コーー・コーニー・コーニー・コーニー・コーニー・コート	の法的な位置づけ ・ャルワークの概: ・ャルワークの概: ・ャルワークの基 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	社会福祉 ソーシャルワ ソーシャルワ ソーシャルワ ソーシャルワ ガ過 ソーシャルワ	リークの定義 リークの構成要素 リークの原理、理念 リークの源流 リークの基礎確立其 リーク発展期	京 月 花合化				
	4 5 6 7 8 9	社 ソ ソ ソなソ程ソ程ソ程ソ程リ程 ー ー - るー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー	の法的な位置づけ ・マルワークの概定 ・マルワークの基準 ・マルワークの形態 ・マルワークの形態 ・マルワークの形態 ・マルワークの形態 ・マルワークの形態	社会福祉 ソーシャルワ ソーシャルワ ソーシャルワ ソーシャルワ ガ過 ソーシャルワ ガ過 ソーシャルワ ガ過 ソーシャルワ ガ過 ソーシャルワ ガ過 日本における	7 - クの定義 7 - クの構成要素 7 - クの原理、理念 7 - クの源流 7 - クの基礎確立其 7 - ク発展期 7 - クの展開期と約 5 ソーシャルワーク	京 月 花合化				
	4 5 6 7 8 9 10	社 ソ ソ ソなソ程ソ程ソ程ソ程 ソ程 リー・3	が法的な位置づけ ・マルワークの概定 ・マルワークの概定 ・マルワークの基質 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成	在会福祉 アグラマルワ ファーシャルワ ファーシャルワ ファーシャルワ ファーシャルワ ファーシャルワ ファーシャルワ ブル ファーシャルワ ブル カーシャルワ ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・	7 - クの定義 7 - クの構成要素 7 - クの原理、理念 7 - クの源流 7 - クの基礎確立其 7 - ク発展期 7 - クの展開期と約 5 ソーシャルワーク	京 月 花合化				
	4 5 6 7 8 9 10 11	社 ソ ソ ソなソ程 ソ程 ソ程 ソ程 ソ フ コ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー	の法的な位置づけ ・マルワークの概定 ・マルワークの基準 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの形成 ・マルワークの所成 ・マルワークの倫理	在会福祉 メーシャルワ ソーシャルワ ソーシャルワ ソーシャルワ ガ過 ソーシャルワ ソーシャルワ ガ過 ソーシャルワ ガ	7 - クの定義 7 - クの構成要素 7 - クの原理、理念 7 - クの源流 7 - クの基礎確立其 7 - クの展開期と約 6 ソーシャルワーク 0 概念	京 月 花合化				

授業科目	
大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学	活支援
投業形態	
経験	
教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験 担当	
経験 担当教員 実務 経験 担当教員 実務 経験 担当	
教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験 担当	
経験 担当 教員 実務 経験 担当	
教員 実務 経験 担当	
担当	
実務 経験	
担当 教員	
実務	
実務 経験	

授業科目	ソーシャ 門職	ルワー	-クの基盤と専		担当教員	道教員 福島 令佳				
対象年次・学期	1年・後	:期		必何	多・選択区分	必修・2 単位	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	とを目的 専門職の 象と実践 内容につ	oとする)概念と も、レ^)いて理	5。①社会福祉士 ニ範囲について理 ヾルの連関性につ 理解する。	の職域 解する いて理	なと求められる ら、③ミクロ・ 足解する、④総	の理解をもとに、 役割を理解する、 メゾ・マクロにお 合的かつ包括的な	②ソーシャリ けるソーシャ 支援と多職和	レワークに係る ャルワークの対 重連携の意義・		
到達目標	て説明で について を説明で	ごきる、 I説明で ごきる、	②ミクロ・メゾ ごきる、③ジェネ	・マクラリス	プロレベルにお ストの視点およ	としての社会福祉 ける各レベルの対 び総合的かつ包括 アプローチの意義	象と実践、I 的な支援の意	ンベルの連関性 意義とその内容		
テキスト・ 参考図書等			晶祉士・精神保健 7教育学校連盟 			ソーシャルワーク	の基盤と専	門職』 日本ソ		
		評価方法 評価割合(%)				評価基準				
	試験		70							
評価方法・ 評価基準	+T/T ++ 24			空抽象	#除のは甲や坦	!出物で評価する。				
	提出物 3 その他				以例としていた 1976年	.ш10 Спт 1111 у 50.				
履修上の 留意事項		≩福祉Ⅎ	└・精神保健福祉		講義資料を配布する。本科目は、ソーシャルワーク専門職で E践の基盤を理解するものであるため、その重要性を認識し					
履修主題・			履修主題			履修 陌	内容			
履修内容	1	オリュ	ニンテーション			/ワークの基盤と専				
	1 7 1	ソーシ 概念と	/ャルワーク専門 <u>∶</u> 範囲	職の	ャルワーカー					
	3	社会福	冨祉士の職域		社会福祉士が働く職域・職場の理解(行政、福祉、保健医 療)					
	4	社会福	冨祉士の職域		社会福祉士が働く職域・職場の理解(教育、司法、独立型 事務所等)					
	5	福祉行	丁政等における専	門職	社会福祉行政における福祉専門職の職種と業務内容および その役割					
	6	民間の 専門職)施設・組織にお 戦	ける	民間施設・組織における福祉専門職の職種と業務内容およびその役割					
	7		の動向			か向、その他の諸々				
	8	ルの対			「ミクロ・メゾ・マクロ」の意味と各レベルにおけるソーシャルワークの対象					
	9	におけ	・メゾ・マクロレー るソーシャルワー	ク	ミクロ・メン	ブ・マクロの各レ^	ベルにおける	実践内容の理解		
	10	におけ	・メゾ・マクロレー るソーシャルワー	ク	ミクロ・メン	ブ・マクロレベル <i>の</i>	連関性と支	援の実際		
	11		かつ包括的な支 らジェネラリスト			2括的な支援として 0視点の理解およて		ルワークとジェ		
	12	ジェネラリストの視点に基 多機関・多職種の連携・協働による包括的支援体制と								
	13	づく <i>多</i> ムアフ	マラリストの視点 ヌ職種連携および プローチの意義と	チー 内容	多職種連携およびチームアプローチの意義と内容					
	14	づく多	ミリストの視点 3職種連携および プローチの意義と	チー	機関・団体間の合意形成および関係の形成、利用者・家族 の参画					
	15	まとめ			全体の振り返り					

授業科目	ソーシャルワークの基盤と専 門職	担当教員	福島	令佳	社会福祉士として母子生活支援 施設に勤務
		実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	ソーシャルワーク演習			担当教員	髙泉 一生						
対象年次・学期	1年・復			必何	多・選択区分	必修・1 単位	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的	的とし	本科目では、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養することを目 的として、 ソーシャルワークの価値原則と倫理、 基本的コミュニケーション能力、 ソーシャルワークの展開過程における基礎知識・技術を実践的に学ぶ。									
到達目標	者理解(クの基) できる、	演習を通じて、 言語的・非言語的コミュニケーションの重要性を説明できる、 自己理解や他 者理解の必要性を説明できる、 マイクロ技法を状況に合わせて活用できる、 ソーシャルワー クの基本的概念や展開過程を説明できる、 自分の思いや考えの主体的・積極的な言語化を実施 できる、 他者の発言に対してコメントや質問等、主体的・積極的なリアクションを実施でき る、 基本的なソーシャルワーク記録を書くことができる、ことを到達目標とする。									
テキスト・ 参考図書等	必要に	必要に応じて、資料を配布する。									
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準					
				+8 1114		1±10 ₽u →-	· , ¬ + >	- シェズの往われ			
						状況、グループテ プレゼンテーショ					
可顺季华	小テス 提出物		0 40	教員(7月17日、アプロングログルの大品を対している。 2日いかけに対する応答、自分の思いや考えを言語化しよ 3.意欲、演習への主体性・積極性などを総合的に評価する。						
	た山初		60	C9 8	5息欲、演省へ	の土作性・積極性	はこを総合	りに評1叫9 る。			
履修上の 留意事項	本科目しむこと。	また、	<u> </u>	えを受	とけ止める姿勢	く、自ら能動的に も重要であり、他					
履修主題・	回		履修主題			履修四	容				
履修内容	1		エンテーション、ソ <i>-</i> ルワークの基本		本科目の位置づけ、目的、進め方、評価基準の理解 ソーシャルワークの基本の理解						
•	2	基本的	りなコミュニケー	ショ	他者理解、言語的コミュニケーション技術						
	3	基本的 ン	りなコミュニケー	ショ	非言語的コミュニケーション技術						
	4	基本的	りな面接技術		面接の構造化・場の設定、マイクロ技法の理解、バイスティックの7原則の体現						
	5	基本的	りな面接技術		良い実践例に学ぶ面接の在り方						
	6	程	ノャルワークの展		ケースの発見、エンゲージメント(インテーク)						
	7	程	ノヤルワークの展		, ,	・、プランニング、					
	8	程	ノャルワークの展		モニタリング、エバリュエーション、ターミネーション、 アフターケア						
	9		ノャルワーク展開 ノーシャルワーク	~ :-	インテーク、	アセスメントの重	妻性、記録	の概要、意義			
	10		ノャルワークの記		記録の類型、	支援経過の把握と	:管理、書き	方の留意点			
	11	用	- プダイナミクス		グループワー	-クの構成と展開過	社				
	12	グル - 用	- プダイナミクス	の活	ファシリテー	・ション技術					
	13	プレt	ヹンテーション技	術	個人プレゼン	/テーション、自己	覚知・自己	理解			
	14	プレt	ヹンテーション技	術	グループプレゼンテーション						
	15	まとぬ	b		全体の振り返り						

授業科目	ソーシャルワーク演習	担当教員	髙泉	一生		社会福祉士として病院に勤務
技兼代日	グーンヤルソーソ _/ 供自	実務 経験	有:	無	₩:	社会性性上として内院に動物
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

授業科目	ソーシ	ャルワーク実習指導		担当教員	吉岡 秀典				
対象年次・学期	1年・1	後期	必何	多・選択区分	必修・2 単位	単位数			
授業形態				授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	み上げ ^さ 習の位 ⁵ ーシャ	を意識している。そこ 置づけや目的、他実習	で本科目 との連閉 振り返る	を確実習に始まり、4年次のソーシャルワーク実習 まで、積 目では、 4年間の実習の流れ(全体像)を把握し、当該実 関を理解する、 実習教育の意味及び構造を理解する、 ソ るとともに実践の場を理解する、 ソーシャルワーク実習生 的とする。					
到達目標	への積	的な学習姿勢で授業に み上げを意識し説明で 実践の場に関する知識	きる。	実習教育の意	味及び構造を説明	できる。 と	ノーシャルワー		
テキスト・ 参考図書等		社会福祉士養成講座 日本ソーシャルワーク教				ャルワーク될	€習[社会専		
	評価	方法 評価割合(%)			評価基準				
	試験	0			ョンペーパーの内 ープディスカッシ				
評価方法・	レポー		加、共	共感的理解、無	条件の肯定的関心	、能動的・	債極的傾聴、教		
評価基準	小テス	·	<u> </u>		る応答など)によ 習時求められる期				
	提出物		養う額	観点から、提出	遅延や提出無の場				
		25 を基本としますが、必	C/1.	<u>急して下さい。</u> ごてレジュメや	 資料を配布するほ	か、視聴覚権	機器や ICT 端末		
履修上の 留意事項	を活用します。実習を体感するために医療機関や地域での見学体験を予定します。またソーシャルワーク実習報告会に出席してレポート作成があります。配布プリントは、各自でファイルを用意し、整理してください。分からないこと、困っていることなどがあれば、教員に相談をして下さい。実習に向かうための準備を行う科目ですので、実習時に求められる主体的な行動を意識して臨んでください。								
履修主題・	回	履修主題			履修[内容			
履修土趣・履修内容	1	実習教育の全体像		り・循環の理					
	2	│ ソーシャルワーク実 │ 義・目的	習の意	ソーシャルワーク実習を行う実践の場の紹介と特徴 ソーシャルワーク実習で求められる内容					
	3	ソーシャルワーク実 義・目的	習の意	ソーシャルワーク実習の目的と意義 スペシフィックな現場体験とジェネラリストソーシャルワ ーカー養成					
	4	ソーシャルワーク実 の意義・目的	習指導		『習中ー実習後」 <i>の</i> 『ィネスとしての自				
	5	ソーシャルワーク実 造	習の構		るシステムと4者				
	6	~ ソーシャルワーク実 造	習の構	実習構造から ること	みえる実習生、教 のよる実習生、教 のを見ることの意義		導者に求められ		
	7	ソーシャルワークの	 基本	ソーシャルワ 践とクライエ	リーク実習報告会 <i>た</i> ニント理解	nら学ぶソー	シャル <mark>ワー</mark> ク実		
	8	ソーシャルワークの	基本		ーク実習報告会だ	いら学ぶソー	シャルワーク実		
	9	ソーシャルワークの	基本	事例から学ぶ	「ソーシャルワーク 、ト・ソーシャルワ				
	10	ソーシャルワーカー される役割	に期待 	ソーシャルワ	リークの本質を知る ・ングについて。と	る。コンピテ	ンシーとクリテ		
	11	現場見学体験学習		訪問先の概要	についての理解	グループ討	 議		
		1		施設・事業所における見学体験学習					
	12	現場見学体験学習		施設・事業所	⊺における見字体制	快子首			
	12 13	現場見学体験学習 現場見学体験学習			_T における見字体駅 「における見学体駅				
				施設・事業所 現場見学体験		美学習	ョンによる情報		
	13	現場見学体験学習	習に向	施設・事業所 現場見学体験 共有)	fにおける見学体験	検学習 レゼンテーシ			

授業科目	ソーシャルワーク実習指導	担当 教員	吉岡秀典		社会福祉士として病院に勤務
		実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			